

東海道名所圖會  
二

ル 3  
3759  
2



門ル3  
流 3759  
卷 2

東海道名所圖會卷之二

目錄

石山寺 佛堂 八葉巖 八幡社 經藏 深初 阿弥陀 紫式部 善賢  
 古觀圖 大般若經 二十八宿 經藏 深初 阿弥陀 紫式部 善賢  
 龍藏院 龍藏院 龍藏院 龍藏院 龍藏院 龍藏院 龍藏院 龍藏院  
 行履堂 行履堂 行履堂 行履堂 行履堂 行履堂 行履堂 行履堂  
 岩間寺 岩間寺 岩間寺 岩間寺 岩間寺 岩間寺 岩間寺 岩間寺  
 田上不動 田上不動 田上不動 田上不動 田上不動 田上不動 田上不動 田上不動  
 龍神祠 龍神祠 龍神祠 龍神祠 龍神祠 龍神祠 龍神祠 龍神祠  
 野路玉川 野路玉川 野路玉川 野路玉川 野路玉川 野路玉川 野路玉川 野路玉川  
 石津寺 石津寺 石津寺 石津寺 石津寺 石津寺 石津寺 石津寺  
 山田石亭 山田石亭 山田石亭 山田石亭 山田石亭 山田石亭 山田石亭 山田石亭  
 草津 草津 草津 草津 草津 草津 草津 草津  
 勢田橋 勢田橋 勢田橋 勢田橋 勢田橋 勢田橋 勢田橋 勢田橋  
 御靈祠 御靈祠 御靈祠 御靈祠 御靈祠 御靈祠 御靈祠 御靈祠  
 建部神社 建部神社 建部神社 建部神社 建部神社 建部神社 建部神社 建部神社  
 秀郷祠 秀郷祠 秀郷祠 秀郷祠 秀郷祠 秀郷祠 秀郷祠 秀郷祠  
 幻住坊 幻住坊 幻住坊 幻住坊 幻住坊 幻住坊 幻住坊 幻住坊  
 立爪祠 立爪祠 立爪祠 立爪祠 立爪祠 立爪祠 立爪祠 立爪祠



昭和九年十二月十二日  
和田大作氏贈

常善寺

灰冢山

三上山

石部鹿鹽上神社

西寺

夏見

横田川

水口

大園寺

山上庚申

義朝首洗水

○土山

活人石銘

鉤古城

御上神社

金勝寺

東寺

日雲靈跡

岩根若水寺

水口神社

飯道寺

山口重成碑

田村明神

草津川

小野寺

新善光寺

妙感寺

萬里小路

平松村美松

阿弥陀寺

石部

梅本

目川

日村川

梅本

石部

阿弥陀寺

平松村美松

萬里小路

妙感寺

小野寺

草津川

義經腰掛石

松尾川

解汲

近勢園勝

琴捨山

泰宮道

○龜山

瑠璃光院

山寺赤人古蹟

追分 泰宮道

諏訪洞

岳阪親若

町屋川

天武天皇社

願證寺

鈴鹿山

八瀬川

○關

出羽臺

森下

範頼洞

國分古跡

日永

三重川

志成神社

○桑名

一本松

十念寺

鈴鹿園

琴之橋

惠蔭櫻

古馬屋

○庄野

石薬師

杖衝坂

安國寺趾

建福寺

西川店趾

名産白菓

長圓寺

光德寺

鈴鹿神社

坂下

地藏堂

布氣神社

白鳥塚

稚武彦祠

采女村

○四日市

那古真屋様

天田八幡

壽量寺

泡洲八幡



石山寺  
東寺

勢田川

東海道名所圖會卷之二目錄

東名神社	舟山祠	橋龍尾	本統寺
輪崇寺	大福田寺	觀音堂	寬永法皇宸經
御寶殿	佐乃富神社	中臣神社	佛眼院
大圓寺	法盛寺	金鼓	最勝寺
不動院	楊柳寺	赤須賀地蔵	伊勢海
向遠波口	多度神社	本社	五社
朝祥岩	津嶋天王	八壺	佐屋
勢倉	黃津里	八壺	伊勢
甚目寺	及魂冢	河波子浦	河波子社
河波子祠		豐太閤御出誕古蹟	





弘法大師剃髮名跡 平供養師の觀賢傍正と俱ふ大師の廟窟に入らば  
神鏡と傳ふ大師自著の番号あり  
當寺の古金襴おろされ石山にせられ  
後陽成院表相と莊嚴し  
源氏間 源氏お指と傳ふ  
源氏の向と

式ハ右少弐原時朝臣の女上東門院の女房あり傳ふ  
 一条院の清伯母選子内親王よりウケらるるお指ありと女院へ申  
 させらるる式部は傳ふにせられし事伝はる申さるる當山に  
 七ヶ日あり傳ふ湖のうきはくと見しとれん心とみくさ備の  
 風情眼を遮るふは傳ふに次大般若の料紙の内陣にあり  
 本尊小申傳ふに思ひぬ風情伝はるけ申し式部は日本紀に  
 ありとれし日本紀局と思ひぬとらる

順徳院御記曰  
 源氏へ一詞はけ非人間之所為不可説之事也又二哥秀逸是  
 又何人及之我朝之最上也 又花きの序云 和國の至寶ハ源氏物語に  
 ありとらる

石山寺什寶  
 紫式部古硯  
 世謂石山形

堅守  
 守四  
 守三

風藻空餘湖上秋  
 泓澄春月水悠悠  
 濡毫紫女今何在  
 一片研池萬古留

鶴山畑維龍





天台四句文と讀みかゝる事お倍ふつたぬりたゆめる事や

式アハ檀那院の贈僧正の許可と蒙りて天台一心之觀の血脈ヲ入り

のりてよりいふ事おま林院の幽閑と云ひて先づもつて一人ある事や

硯石 源氏の向の畫と云ふは武アガ所持の硯石と云ふは源氏と云ふは

大般若經 今當寺の什寶なり

二十八社 當寺の鎮守之祭神伊弉諾尊伊弉册尊神日本磐音彦尊

二層多寶塔 建久の院將軍與朝野の建事あり

觀月亭 當寺の北のあり或ハ觀亭又ハ觀月亭と云ふ所あり

鐘樓 當寺の地あり石の古説云は鐘樓と云ふ

御影堂 又ハ三昧堂或ハ法華堂と云ふ

中央弘法大師 在 弘法僧正 右内供 法華堂ハ八証の畫あり

當寺僧寶傳曰 良辨淡海百濟氏子母堂失於來樹下有僧史

已長而創東大寺鑄遮那銅像聚金山薄此時

本邦未創有金乃勅使辨所金峰山金剛藏王

地就彼持念必可得黃金辨使尋至經廬安帝

所授如意輪像此像益自聖德皇太子自奧州

始貢尊即六寸金銅像也己修念不幾自具狀奏

朝帝先干東大寺寂伽藍勅名石山寺當夷基

趾地中得五尺實鐸益以鳥靈地如詳載寺志

辨以寶龜四年閏十一月十六日化云云

延喜の初年 聖德太子ありて良言秘宗と弘演

觀賢堂 觀賢堂ありて相州之山寺の起りて

近州志賀郡の人とあり相州之山寺の起りて

太史時忠の子ありて出誕の後二つ乳母あり

ゆく事成知りて對空神より金色の鬘冠あり

赤子ありて母の室に

室に

室に

室に

室に

室に

室に

室に

昇りぬとあり故郷ゆれを大山寺へ歸りて出美前

○八重櫻 古本を植へて世々植へん

○影向石 日向の石を觀る

○倚子石 日向の安泰寺にあり

○南院毘沙門堂 石燈の上あり

○食堂 下壇の地あり

○蓮池 蓮花の池あり

○比良明神 影向石

○手水石 僧堂の石あり

○不初明王 中むり愛想あり

○世三所觀者堂 中むり信尼あり

○因伽井 井の出あり

○天物杉 杉の木のあり

○柳島 柳の木のあり

○谷川 泉飛雨洗聲聞

○奥門跡 跡のあり

○龍穴 穴のあり

○尻掛石 石のあり

うり出現し、わ尚瓜恭致し、千里白霧山、深鳥一聲、直評

○義平墓

義平の墓、源太義平、近江國石山寺の辺にあり、居たが、延治三年正月廿五日、  
生年廿二、平治也、弟也、兄也、義平、末の軍也、  
此所、山中小法、のび、赤、寺、若、法、  
義平の首、都名、所、二、条、舎、今、至、  
小屋谷、谷、の、谷、  
行履岡、山、の、  
東大門、東方、二、王、門、  
石山寺額、右、内、の、堂、塔、の、跡、  
世尊院、圓宗院、門、外、の、西、  
岩平坊、梅平坊、東、地、坊、  
中興坊、  
岩平坊

○小屋谷

○行履岡

○東大門

○石山寺額

東方二王門とて、都て今、諸伽藍、  
二金剛像、東大門、  
石山寺額、右、内、の、堂、塔、の、跡、  
世尊院、圓宗院、門、外、の、西、  
岩平坊、梅平坊、東、地、坊、  
中興坊、  
岩平坊

け院中、持寶院といひ、天文の辰、  
八月、持名院、公條、文覺、寺、  
五日の會、  
都みも人、  
いづれ、  
あつ、  
石山寺額、  
世尊院、圓宗院、門、外、の、西、  
岩平坊、梅平坊、東、地、坊、  
中興坊、  
岩平坊

いづれ、  
あつ、  
石山寺額、  
世尊院、圓宗院、門、外、の、西、  
岩平坊、梅平坊、東、地、坊、  
中興坊、  
岩平坊

あつ、  
石山寺額、  
世尊院、圓宗院、門、外、の、西、  
岩平坊、梅平坊、東、地、坊、  
中興坊、  
岩平坊

あつ、  
石山寺額、  
世尊院、圓宗院、門、外、の、西、  
岩平坊、梅平坊、東、地、坊、  
中興坊、  
岩平坊

辰、  
八月、  
五日、  
都みも人、  
いづれ、  
あつ、  
石山寺額、  
世尊院、圓宗院、門、外、の、西、  
岩平坊、梅平坊、東、地、坊、  
中興坊、  
岩平坊

石山  
蜜符

かろ  
見や  
紅頭  
かほのくれ  
こま



山日大

新古今

かろの飛のやうな  
よみゆき

のちこ

よろの量の  
のほつん

ひうこあしぬ

茶の枕子

壬生を見



香泉



年

石山秋月 秋風蕭颯 一天一涯 霜滿四山 不帶露  
詩相國寺林長老 古木回岩 寒月影 吟殘葉 霧中花  
歌 狹園自時照 一山月影 吟殘葉 霧中花

夫石山寺を奉創より年深久遠ありて延暦三年も双びて邪  
一千有餘年小建僧正良辨初と奉てあふ承り之悲の平尊安持念  
せりみ陸園の金きく心より初々黄金瓜貢る白髪神靈上ふ為と密く  
靈迹たる奉示一策式部湖月と賞て源氏と著一瑠璃の古碑成  
るむ平堂の巖上も建く其のつらに崔嵬なる巖石層々として移宇  
寶塔所くみ足へり後み連峰峩々として若間登取砥礪とばき  
て峰嶽なる中み壘場あり若み湖水の流は水林茫々として今古わく  
月と俗して古朱石山の秋月ハ糸の一腸への漢舟つらありて供御の願へ  
下し卯月さけたのはは堂見とく河の面舟船碇ひよ三弦の若今操乃  
声柳の舟つとく美客とすちて大日山より飛舟堂幾子若の教を以  
名春とく石山の堂と他ならずも極く大に光も強しあは凡土の春

西園巡礼もあみ来つて長後背散下春宮坂途も共み歩混とく  
真成催使在りし古人の秀蘇多く代々の勅撰も多し出り  
三尺の童子も若人初の若紙の表者み石山秋月と記するも貴とわく  
依とかくは名勝と賞ざるの専あり謝莊月賦は法質の悠々  
さる瓜升澄暉の藹々さる瓜源に刊寫纏ある奉瓜楨ひ長河映と韜  
とそいあつての事ある也

石山寺 石山寺門外の名所  
石山寺の門外にありて石山の山頂にありて石山の山頂にありて石山の山頂にありて

東寺ヶ寄 大内の後とて石山寺の境内にありて石山の山頂にありて石山の山頂にありて

螢谷 石山寺より野田までの半にありて石山の山頂にありて石山の山頂にありて

浮橋 或は憂橋又浮身橋ともいふ石山の山頂にありて石山の山頂にありて

玉葉集 因融院の石山寺より九月晦日 殿上人の書とて石山の山頂にありて石山の山頂にありて

和らもつるみちるはりのうたふすたぬのあさみのりを春

○荒痛茶師 芳田より石山の道の側あり石山寺の別所  
本尊石像係解日月光十二神將の係あり縁起云延寶四年石山寺開張の時龍女は堂より出て其鬘髪を納りて今什葉と云ふ荒痛茶師と云ふは其の御孫なりと云ふ事あり

○空明菴 源州之政法師の老母の古縁石山寺あり今田畑あり其の御孫なりと云ふ事あり

○城墟 今民間に子孫あり井上と云ふ事あり

○毘沙門堂 城の古護神の長入尺井の天像威靈の相好なり

○新宮明神 石山の鎮守寺也村あり此所の生土神なり

○財川 石山田圃の中あり御水はかづれは石山の政所  
右に上へみか石山寺に属す

岩向山正法寺 石山の奥岩向山あり真言宗  
西園巡礼十二番札所  
本尊千手観音 長口寸之阿金剛御親 兼泰澄和尚の持念佛  
それ山に元正天皇御宇昔老年中兼泰澄御親に授け身と放度及び安坐して一人一様を全洞千手北邊と奉尊と云ふ事あり又加蓋の西兩手桂樹あり其の御親岩向石山の向と山路よりく巻くあり西園順北へ歩くと麓よりく足と踏跡も多かり

陀羅尼谷 石山より醍醐へ出る山中の細道古傳云供養師の觀賢  
傍西の沖へ日々あり山中と陀羅尼と稱しくは

御靈祠 例東三月三日  
相傳は皇子降見原天皇と合戦しむは又友皇子遂に

○系神大友皇子 相傳は皇子降見原天皇と合戦しむは又友皇子遂に  
日本紀云 大友皇子左大臣等僅身免以逃  
男依等即軍于粟津下是日羽田公矢國  
雲臣狛合共攻三尾城降之士子男依等斬  
江將犬養連五十君及谷直堀手於粟津  
是友皇子走無所入乃還隱山前以自縊焉



今奥  
 奥田の  
 朱々  
 又々  
 榎の  
 大り

山笠取

推多



中しかくと  
 あしてや  
 岩の  
 枯尾花  
 くらん

洞岩

國分山  
 芭蕉翁  
 住菴  
 古蹟

剛子



蕉翁ありて其の某月と云く長明の方丈記に效く約住菴の記に  
まれ一夏九旬より一石小一字は深多法其二十八品と書寫一里のワラビを  
あけたりと碑と云ゆる其賃多々糖菓とてその入量あれは換く其功と述る人の  
今朝ありては石土中より出ると其記文の末に

先きのむ推の本もあり夏本立

は一向を遺しく閑素出棲の風流も着し生涯名利を棄て月雪小戯れ  
中記中の社に近津尾八幡宮とて國分村の生土神とて武平の所時管ふ  
一國分寺の廢しく本尊茶師佛村中の遺場あり又別保の茶師といふ  
少くくの宇に汲水をすもまた佐佐木ありて推の本に伯夷が廢り換り味ら  
膳前の城橋の勢多のそくさくが嶽の如佐藤より東の方谷上とのぼりて  
千丈が嶽といふ岬の方ありていやはりの高山千丈南千丈の二峯あり  
袴腰の千丈が嶽より一里南ありて勢田川よりあるふれは病もとも  
そくと海に望取山の石とて碓氷の中ありされは宇治山の喜撰ヶ嶽

洛北の朗誦谷芳聖の昔清水外山の方丈石をぞみか同日の禰の山居ありて耕を  
釣月の隠逸あり

太神山不動寺

谷上山高峯あり又田上とも書ば人谷上不動と称は

本尊不初明王

智達大師の他長六尺高山の茶創り一徳を奉り乃行午

田上川

勢田より谷上山へ也也勢田川ありて勢田川の源を極めん又田上山  
田上里の古跡あり後頼口の山居ありて中古勢田より今もわづら

月夜に田上川に流るれありてそのをせし舟もみたり

旅神とて芦のたやの寒くれの爪本とつて舟いそくあり

つと火の鬼もうけ成たり田上川乃わけはのくそら

よみそく一行しと流る夜もれ田上河みよる時や

長明方丈記  
勢田の源ありて勢田の源ありて勢田の源ありて勢田の源あり

後注  
新注  
後注  
新注  
後注  
新注



七のり  
勢田橋  
一名  
五柳橋

有難賣世人  
皆龍宮ヨリ  
出生ノ未ナ  
喰フ可也  
上ノ所

湖の  
宮の  
御  
心  
経  
の  
事  
を  
記  
す



下河邊

秀郷  
到龍宮







田上不動寺



谷

後頼卿  
古蹟

田上

湖水

和舟の名所 湖 延小七十餘所のり

風はるまへの水海を晴く月かけ清く 沖津島山

まぐ波や五月照のぬれぬ夜浦をさむく ぬれぬ夜浦

五月の海や汀の子鳥をさむく ぬれぬ夜浦

少海の家やあてと秋さね明み行のさみぬり乃舟

月影もさへて浦の秋をれは沙やくのまに煙さみさく

湖の海や月の光は川ろへ波の花も秋をみえたり

雲の流相の波や菖花のゆは美ま志のむ湖乃海

湖水の一名湖の海或は冷海大宮ふちた江とく道江といひ又琵琶

湖といふは形よりく勢も東西十里南北二十里堅田より勢田子

至くせはく琵琶の鹿角小似り勢田より宇治小をくへく細くは海老

尾またとより柱ま竹生誇り都く山谷の瀧も八百八川勢田の下流供所瀬

黒津南郷と名く巖石高く聳く兩家のぼくと鹿鹿といひ白流瀬り

落る所と米濯といふは名所とく宇治に至る淀川小入難波より又洋平會次

湖水の名所多と中平裡新江経橋結新勢田縹堅田飯氷奥の内膳

式もゆく供所と成具外給水桂蟹観泥亀を救くありけ湖水成

園じ水郷五百餘村佐々木百万石み琵琶湖の濁ひむく孝聖五年

一夜平地裂く湖と成同村富士山現れは不二禪定をる小道江人成

先達も勸む善積一郡は己平湖とありく今ふく古来より讀ふとく

日本紀古事記にも見ええを憐れに撫く河流の水深細くく

山谷の中より流る家語も孔子子路小謂く曰ま江の岷山も路も瀾水也

ほらとありけ勢田川をれは原を水源遡るく古来も朝た

う川をみと称するのけ琵琶湖ありて之園も又ありひか

建部神社

勢田小あり延喜式云名神丈高園寺一宮と称法

祭神大己貴命

相殿姫宮之武奉向風日平の鎮坐と三代實録曰

月輪池

月輪彩田小あり大龍川の東に池二あり

元の方あり池の中橋も亦大綱鎮座法



老松村

野の  
野  
川  
古跡

三  
おの  
瀬田の  
一村  
聖徳の  
方家



天弁

天弁

武蔵守  
 山江  
 紀毒  
 山吹小  
 紀毒  
 山吹小  
 紀毒  
 山吹小



六五川の中  
 聖跡玉川

新拾を  
 さ依麻の  
 月も  
 色も  
 聖跡の  
 玉川  
 本権師  
 仲光



法橋中  
 印

聖路玉川 聖路里西の河あり道の傍に長サ式向半折なり其の極まじり小池

千歳 なるもあや聖路の玉川に秋賦く色あは波小月夜よりなる

聖路原 土人聖路村といふ

おしれ古くは神ぬれりさたをきき聖路の原なり

教ふる聖路の志のつらき傳くは都を憂へたる見れば

むしき清依朝卿伊豆國淫小治と出く旅の上の山時依るは四帝の御都の

をりて悪徳といふ所は恒々たる今及古妻へ下らんといふ愛忌のつらき山原

ありて足痛つづかれあんなるあま馬を引くもあまのありあはちあつたより

そたぐの都のりあはちあまの御孫を足もつづれり聖路川のむしき其馬

ありてんやといふ馬を引くはあまの川向ひをまきりて聖路の原なり

石津寺

湖羅山と併に

本尊薬師佛 初めの清き傳教大師比叡山に於て根中堂を建て

一尊あり後世は元禄年中江府東叡山中堂と建管の時

公余より上聖に遷居又初延壽寺と名刺の時に大敷と遷

授為其石は新止りふ

ありてんやといふ馬を引くはあまの川向ひをまきりて聖路の原なり

矢橋歸帆

釣竿手熟白頭翁辛

幾度風帆歸去後日公榮達一盃中

真帆引く矢を白頭翁今お出の淡波の舟

戸津坂の人家志賀浦屋敷松打出浪大津

秋風吹く松の枝葉津原より

例来四月初卯日神主紀氏護侍

左神功皇后 社傳云天武天皇白鳳四年二月十一日大

右武内大臣 勅を奉りて勸修院に其後建之

元年十月二日右大將賴朝御上洛の時

神社へ入りて浦の舟を八幡大神と申上り

有と再拜し舟の故を頼朝の舟なり

社権再興の事社社権不足なり

神守神 子守勝神

山王祠 子守勝神

社願古跡あり

除穢井 安堵松 勅使松

石津寺

本尊薬師佛

初めの清き傳教大師比叡山に於て

一尊あり後世は元禄年中江府東叡山

公余より上聖に遷居又初延壽寺と名

授為其石は新止りふ

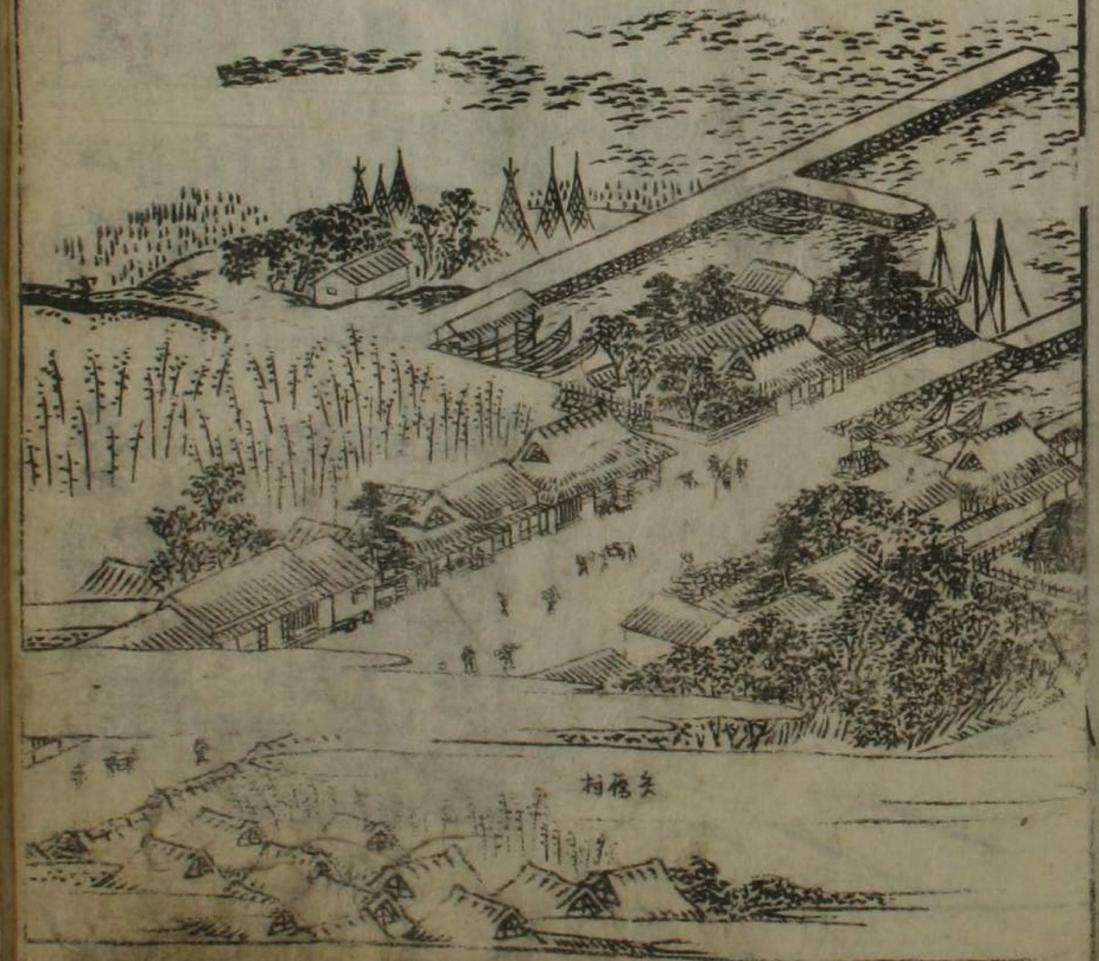
ありてんやといふ馬を引くはあまの川向ひをまきりて聖路の原なり

ありてんやといふ馬を引くはあまの川向ひをまきりて聖路の原なり

ありてんやといふ馬を引くはあまの川向ひをまきりて聖路の原なり

ありてんやといふ馬を引くはあまの川向ひをまきりて聖路の原なり

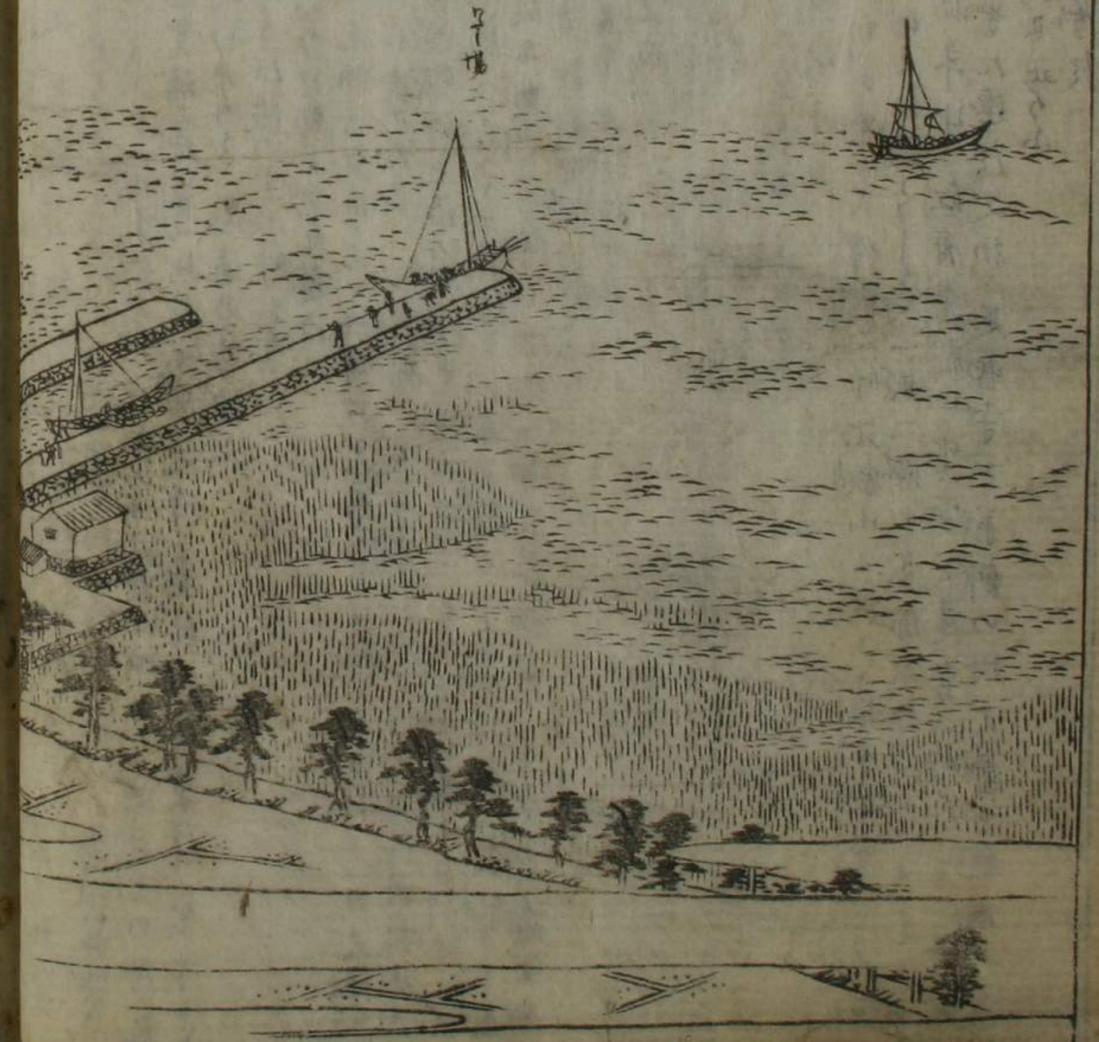
舟施  
 湖照や  
 矢橋の波  
 正の身と  
 いそそい  
 世この橋を  
 兼昌



村橋矢

矢橋  
 渡口場

舟施  
 矢橋の舟  
 出ぬ舟小  
 のをさくれと  
 いそく舟人  
 公朝



鞭寄  
八幡宮



石亭

栗太郡山田より決橋より此所神小松橋  
 山田波呂の村中本内小繁と多家久とと村翁ありは人生得る年をり  
 和漢の名石好み年茶諸園より聚りありと旅する年殺十年は遠べり  
 恒石の形流風流みくを小松橋と樹いさ光ある書院石松より外  
 兼若瓜林と席上より遙小見つさは湖水流流して日枝の石根痛  
 の松真聖堅田志賀の都北の湖ては沖まの山田久橋のつと松行々く  
 みかけ亭とてかたかたなる石神代の勾穂なとて我國諸州の産の國北  
 産赤石化石大物の爪水入の紫水晶中をある屋小筋と又小首玉入の錦  
 塗籠玉家藏とる車都て二千餘石ありとて所謂晋の石鼓と叫ぶ陶器  
 石小外孝徳が醒石玉定く月小日暮朝小夕亦たは灰愛は海内まの  
 好事の茶貴とく候とわくあは鶯成柱とく穀の石松見とる  
 予も巡行の序に立寄く石松觀る人の負玉入也  
 和漢の石石ありとて茶壺玉壺  
 故玉居所の二とあつた圖その

濃州産  
月珠石



相州産  
羅漢石



相州産  
石種芝



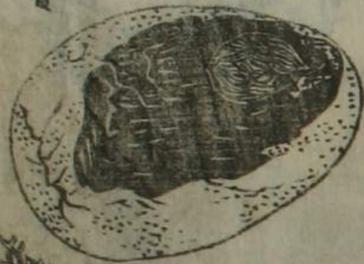
濃州産  
候松石

春泉

家寶あり

山田石亭石  
古今の名石家あり  
赤石怪石数種あり  
都て二千余種あり  
多し其子の二三は圖  
そののて海内の好  
あまふりてのきか  
観るに証し又作  
邦よりも持来り  
楽みもさるに  
みとん左傳  
師曠石能言

濃州産  
石膽膏



流石  
石拍葉



濃州産  
燕子石



琉球珊瑚



鉄樹



濃州産  
毛龍石

夏花ハ山田子原の  
 名産ナリて後名と鴨  
 必花以碧錦花  
 之のふては白の花と  
 指合紙平葉とす  
 下給の園のあの花ハ  
 新日のけ小咲とほ花と  
 自給の園のあの花ハ  
 白く又さる花とす



華津屋  
 白井直賢  
 昌  
 昌

步倦驛亭返  
 茲休賣餅家  
 出門還跨馬  
 到處鼓吟牙  
 熊谷立肉



是所の  
 吹子  
 安が  
 こと  
 うけ  
 娘が  
 くる





琉人海  
 草津驛  
 觀駒井  
 氏之活  
 人石



草津

立本明神祠

祭神

和州春日明神... 祭神... 和州春日明神... 別當善賢院... 神護景云... 神中春日神鹿... 和州春日明神... 別當善賢院... 神護景云... 神中春日神鹿...

常善寺

今津土宗... 常善寺... 今津土宗... 常善寺... 今津土宗... 常善寺...

本尊阿弥陀佛

本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛...

活人石

活人石... 活人石... 活人石... 活人石... 活人石... 活人石... 活人石... 活人石...

化石之類... 化石之類... 化石之類... 化石之類... 化石之類... 化石之類... 化石之類... 化石之類...

近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡...

系津川

系津川... 系津川... 系津川... 系津川... 系津川... 系津川... 系津川... 系津川...

灰塚山

灰塚山... 灰塚山... 灰塚山... 灰塚山... 灰塚山... 灰塚山... 灰塚山... 灰塚山...

本尊云觀音 長八尺聖德太子の神化同祖久遠うてありて其處の

梅本

是齊と本家といふ

小中寺

本名六地蔵村とありて中散の茶店三軒許あり

鉤古城

上洛の時病み外川村の西園村ありて

三上山

梅本の東山を里許あり一名百足山といふ

御上神社

九年の内名神大月次新嘗類聚國史云貞観十七年授從二位

祭神伊特諾尊

古事記曰開化天皇聖德太子之御上祀天之御影神之女

茶老

茶老本年中

神

神少りみりれとふゆひて行るひたりたり

櫻

三上山の櫻小南櫻村あり

三上山

三上山の櫻小南櫻村あり

御上神社

九年の内名神大月次新嘗類聚國史云貞観十七年授從二位

祭神伊特諾尊

古事記曰開化天皇聖德太子之御上祀天之御影神之女

茶老

茶老本年中

神

神少りみりれとふゆひて行るひたりたり

櫻

三上山の櫻小南櫻村あり

三上山

三上山の櫻小南櫻村あり

御上神社

九年の内名神大月次新嘗類聚國史云貞観十七年授從二位

祭神伊特諾尊

古事記曰開化天皇聖德太子之御上祀天之御影神之女

茶老

茶老本年中

神

神少りみりれとふゆひて行るひたりたり

櫻

三上山の櫻小南櫻村あり

三上山

三上山の櫻小南櫻村あり

御上神社

九年の内名神大月次新嘗類聚國史云貞観十七年授從二位

祭神伊特諾尊

古事記曰開化天皇聖德太子之御上祀天之御影神之女

茶老

茶老本年中

神

神少りみりれとふゆひて行るひたりたり

櫻

三上山の櫻小南櫻村あり

東海道  
津分

東海道  
直岐  
名護屋  
中仙



春泉

通 道

新 言 光 寺

高野郷林村あり  
浄土宗願西風

本尊之尊弥陀佛

長き尺寸二菩薩も尺  
任州新言光寺

寺説云仁治年中此地小松左衛門尉宗定といふ武士あり、  
往時成つての願ひ信州新言光寺に四十八ヶ夜修行あり、  
女のみ生身の尊佛現はるゝの事あり、  
菩薩も共々寶冠を戴き般若の字をひき、  
蘇りて是れ身之尊佛なり、  
も同義と見ゆ、  
一字を建てる新言光寺

石 部

水口手元三哩十武町驛の端に金山村あり、  
石部の金山といふ今の上道に十年成り、  
横田といふ河原の邊生み林風さむる所也、  
石部鹿鹽上神社

石 部 鹿 鹽 上 神 社

中田向に鎮坐し延喜式内に今兩社あり、  
石部鹿鹽上神社と石部鹿鹽下神社あり、  
後世に記す、  
生土神あり、  
四月上巳日

金 勝 寺

金勝村の山頂あり、  
長年傍正の南基に後世極盛、  
海年正月十五日、  
禁裏所附の供中、  
調貢する事

調 水 調 貢

借ふ事あり、  
震 巖

目 川

目川と村の名  
あれと今へ名あ  
の菜飯田樂  
豆腐は名不  
馳して他國まで  
目川の店より  
豆腐百粒の一種  
とあるもあれが  
全盛あり





梅本

新の石れ梅本  
 氏此處の石れ梅本  
 家の石れ是は少と  
 其れは石れ梅本  
 小田原の外に乃  
 たるは石れ梅本



金勝山  
震巖

金勝寺の  
震巖(數十人の  
ちんちんりりく  
初せとも文子  
初は身を清めて  
僅ふ指敷とら  
押はは息者だ  
初くあり



春永

星風穴妙在  
類後人  
梅辻北陣守想湯  
著述  
船の上開き思テ  
迷り晴ス  
此ハハ陰即モアリ

揮塵録小曰  
宋の政和年中  
嘉慶縣より  
一巨石と貢ぐ  
夏寺二天余千丈  
これ成解とも  
初は或人のこれ  
神物と云ふ  
表幣と云ふ故  
顯して慶雲の熊  
号して金勝と云  
其上に樹て初と云  
漢初年して花中  
至るまきの初と云  
比せん



阿弥陀寺 金勝村の阿彌陀寺は并次伴土宗也 七谷とて入谷阿彌陀の地

本尊阿弥陀佛 文明十八年宗廟上人の建立足利義尚の信りて後土御門院

西寺 甲寅郡西寺村あり石部より十餘町南に阿彌陀寺

本尊如意輪観音 後伴神の能重武帝の勅願良存保正の南基之伴殿二層塔

東寺 同郡東寺村あり阿彌陀寺と号し古蹟あり

本尊地藏尊 行基居士の能重武帝の勅願所あり古代の伴殿あり

大石塔 堂ありあり鳴りて大石五輪の形ありあり古蹟あり

鬼難 正月十五日夜に赤鬼黒鬼の舞を被り鬼の舞とり式あり伴あり

梅櫻 堂ありあり右大將頼朝より江州梅物庄と号す

美松 行道筋に松あり又松尾の外洞あり

美松と辨をり半の松の葉細く艶あり四時をせは蒼々たり松の高小大

あり大樹の根をり四五人そを以て株常の雄松のめりそをり枝を枝すはれ近く

視をり蓋のめく遠く眺むに側柏あり始皇の封松李白南軒の狐松あり

霄爪凌の雲樹異なり深葉の雌松株其雌雄分明あり緑葉同姓

生はけし中み深く悉同本之隣山の松あり又松一株もかき又他所へ

移し或は鉢植ふごころみ移かく枯く育せは和漢松の部類を考ふべき

はたせは遠近あり来て初て観る人賞嘆せはつる事あり是風土の奇也

宴見 村の名はれは名はれは宴身と書はま松のふあり山水を覽より水車あり

日玄靈蹟 之雲村の神祠あり密仁天皇の附大和國より大照太神降あり

妙感寺 之雲村の南妙感寺村あり禪宗南基勅諭神光寂照禪師俗姓あり

本尊千手観音 長七寸神師定朝の能重武帝の勅願所あり

万里小路藤房卿終焉地 萬里小路中絶言藤房卿終焉地

又竹室あり藤房の能重武帝の勅諭所あり

建武二年 後醍醐天皇の御代あり

太平記及び古語拾遺小引より老後此山へ分け入帝より賜りて一尊の徳大寺尊  
とていさなつとある一尊の奇と詠り

世の子をさすを其の雲の奥深くては月ひけやふととの友 尾居

**横田川**

田川村の東あり横田川村の畧語に水源は甲斐谷の箱流會より

**獄門岩**

川原路傍あり相傳ふ康平六年奥州征伐の時安部貞任同重任  
二人の首京都へ送る時役吏はく小憩せんとし

**梵字石**

道より山上百歩許あり相傳ふ傳教大師元來の二字は自書とて

**岩根山善水寺**

天台宗 横田川の水岩根山あり

**本尊薬師佛**

關土田光月光十二神將四天王  
傳教大師の作

**大師堂**

境内小あり 鎮守 六河菴親成 劇伽井 本堂の基石

**百傳池**

本堂の傍 思川 岩根山の麓にあり 又流あり

**百傳の岩根の池**

みかく鴨がたのこもてやまのくれあん

**又本**

ぐちかしくいそ白ん伝の岩根の池は吹のそふ

**又本**

わが川のきわの岩根の池は吹のそふ

**又本**

つくとふいそ子の池せく水の流たつけそりし心縁は

**岩根山**

山の最高峰十二坊あり十二坊あり 其古礎あり

**北浪の岩根**

飯道寺山を隈をくはてりて日光のた佳境あり

**又本**

り本伝すえく若代に岩根のふれ岩乃あ松

**又本**

吹出のいひう峠の麓よりまるとこれとく人しか

**又本**

久このある一成り色つぬいのふれ松のみとり

**又本**

それ當山に 元明帝の勅願あり 和銅寺と辨次殿后延暦中傳教大師

**又本**

比叡山根本中堂と營ふつけ山の良材と伝く横田川小筏にて叡嶽

**又本**

せんを其年早懸くくは小水か 大師堂山にて今も今も百傳池に椀茶圃

**又本**

出たり其茶も良茶金留の四字あり大師希池中と探るに筒浮檀金とす

**又本**

八歩の薬師佛と傳りてまは瓜本尊とて信満の法を傳るに水満とて

**又本**

良材も汲み出麻浦も有せり大師を梵刹と創り勅を奉りて今も薬師佛と傳り

**又本**

金徳を體中小藏の台嶺の宗風あり 醫王善逝の遺水ありと善水とて辨たり

平松山美松

松の葉をまゆふ  
ひまをまゆふ  
松の葉

川  
松のくまぬれ

右まさん

かけ傘の

枝ぶりのま

班叶



松の葉をまゆふ  
ひまをまゆふ  
松の葉



水口

水口神社

水口神社 延喜式内記 延喜式出城下の生土神と云

美濃郡大満宮

美濃郡大満宮 延喜式内記 延喜式出城下の生土神と云

蓮華寺

蓮華寺 延喜式内記 延喜式出城下の生土神と云

本尊阿彌陀佛

本尊阿彌陀佛 延喜式内記 延喜式出城下の生土神と云

大岡寺

大岡寺 延喜式内記 延喜式出城下の生土神と云

本尊十一面觀音 延喜式内記 延喜式出城下の生土神と云

長明海通記 延喜式内記 延喜式出城下の生土神と云

退齡山飯道寺

退齡山飯道寺 延喜式内記 延喜式出城下の生土神と云

本社飯道権現

本社飯道権現 延喜式内記 延喜式出城下の生土神と云

本堂

茶師 弥勒 釋迦

大師堂

元二大師

存財之祠

當山金剛院平安依止者傳加藤本ありて織田信長所持尊之

大黒天像

初ハ蒲生郡柏長者の特尊ありて當山に納りて猶祈成

身渡江

山王祠 本堂の傍

藏王堂

山の才腹 末社十八名 當山祈々 影向石 本堂の上

護法石

本堂の小 龍池 本堂の下 開伽井 開伽井谷

鐘樓

南谷小川谷の林の祠あり者 杖柱 水口道の傍

足跡石

教向石の傍あり 石南善谷 谷の石の傍あり 満長谷

道標石

八百比丘の 山伏落 本社の傍ハ險難のせあり 當山に惡魔のれが

押當山の南廟

元明帝和銅七年八月十五日天童妙相瓜現して甲賀

郡聲嶽

巖を鑿鑿し教向にありて齊官女といふ人あり 然聖権現乃

齊官女登山

さる小柳の花飯と盛る形み見ゆると道の標とて中興

向石の側

然聖之石権現と勸法次故に飯道神社と號次殿后 聖武帝

信樂宮小遷都

一々附王城の鬼門守護とて天平十五年八月南都

興福寺の安岐法師登山

伽藍と造立とてぬ部の處場をこ

文德帝の所宇

飯道神社に位官に授け醍醐の聖寶尊師徒貴

當山若本坊梅本坊和別大崎

且隨身供とて中興に於時九月五日に

今日至つて

日笠と負く社名一活る瓜例式とてなれ瓜皮渡りといふ

當山の開基

良辨僧止安岐安岐二世相續て任職とて中興に先定大師に

長覺大師

近衛院之安年中飯道権現の勅額と賜ふ 今堂藏に時中實

の惣社

成織田信長の初願と信ありて登山し鳥井坊小斎齋

神領と新附

の事古記に及らるるこれハ山々崎葛城とありて

峰峻

とて老杉並鬱蒼とて梵宇寂寞とて苦蘚蒼々丹まらるる

且空しく

足れとも神徳いむとも今も憂るにぞとてわれを



飯道寺  
いんどうじ

山上庚申 水口より南を里山に上りありあけり登る年十八町山頂也

青面金剛童子 傳教大師の他岩面を禱して是曆年中又解比麻山根平神尊

甲賀谷の一名松谷といへ又礪之尾といへ民権小入解初く伽藍を建てる古跡

辨慶背鏡石 水口の赤毛里小里村の石の方山にありあり 景清力鏡石 日所ふ

義朝洗首水 縮川の側あり 義朝の墓と云ふ瓜谷に右の石は洗首水共た

山口重成碑 右の首の石の傍あり山口志志清重成の墓に慶長中の人

慈安寺 寺中村のあり 禪宗字法 美濃山の末派に 後水尾 洗首鏡石

松尾川 松尾村の流あり 一名内白川といへ土山の田村川と

若代の子を丹をに出入りたり松の小川乃水のまはる

土山 土山の下まき武里半西立場多賀神社へ末法道の標石あり

田村明神祠 土山の駅北東にあり 縣中系の方け土神といへ

祭神 中央將軍田村會 相殿系の方嶺嶺天皇

平地堂 千の観音と 末社 禰宗 弁天 神徳家

神寶 田村將軍像左右小二鬼が提中へ又能麻作が像俱小画彩より

綱御將軍軍券より賜る 珍瓏たる名品なり

史書社鎮坐の年歴同記を見たり 往昔延暦年中奥州安都高丸王命

小坂一六田村將軍追討して駿州清見園を封じたりあみ合戦の時清水

親者並驗の事あり又一休和尚は志をゆるの附強盗に遇り幸陽難記に

あるり又田村の謡曲は田村九能麻の鬼神退治の事瓜能事ありを附會して

神祠は建るといへり 或云え正のに諸國安土山は織田信長在麻の時田村

道は終麻山の鬼神田村九能麻の事年久しく世に云あり一へり

近郷ありを路傍小祠と 抑田村將軍の傳は續日本紀王代一覽元章

見へられ詳記する小建は田村會は 桓武帝の外戚あり忠肝美臆の人

且勇威あり一を眼と張て怒る人を猛獸も身と縮り四足は變じ一を

幻見も親とく是母のゆくと面貌とくを懸英とく園羽のゆくと

鬼おに従したが一いつつつ古ふるにに多おほくく川がは 天あま智ち帝ていのの所ところ逆さか長なが藤ふじ原はら千ち方ほう金かね鬼おに  
風かぜ鬼おに水みづ鬼おに隱ひそ形かたち鬼おにのの四よ鬼おに従したがくく伊い賀が伊い努ぬのの間ま五ご王わう命めい背せくく紀き友とも雄ゆう  
小こ詔みことまああのの千ち方ほうとと討うむむ友とも雄ゆう一いつ首くびのの歌うたとと海うみくく故ゆ軍ぐん一いつ賜たまは

兼かねもも本もともも亦また大おほ君きみのの國くにををひひげげくく鬼おにののままみみああるる處ところに  
鬼おに等らああれれとと嗟なげかかししててみみああららししめめ去さりり千ち方ほう勢せいををてて友とも雄ゆう小こ討うむむのの  
役やく小こ角かくのの牙が縛ばくししてて若わか鬼おに後ご鬼おにとと從したがへへ源げん頼らい光みつのの四よ王わうとと連つてて入い江え山さんのの鬼おに神かみとと戮ころすす  
後ご志し綱なづなのの羅ら城じやう門もんのの鬼おにのの腕うでとと斬き平へい維い茂しげのの戸と隱ひそ山さんのの鬼おにをを誅ころすすはは田た村むら倉くらのの延の壽しゆう  
十六年十月從四位下征夷大將軍小叙弘仁二年五月大納言右大臣將成

過去かこ以も年ねん五ご十四じゆ 天子てんし旨しめ味あじ園えん小こ入い唐たう魏ゑい徴てい比ひしし爪つめ牙がのの長なが古ふる墳ふんのの山さん州しゆう  
山さん科かのの南なん栗り栖せのの若わか洞どう山さん清せい水すい寺じのの坂さか上かみ田た村むら堂どうとと稱なづけけああ原はら旧ふる名な高たか  
座ざ心しんのの座ざをを世よもものの故ゆ是こゝ座ざ明めい神かみのの宣のたま令たまああるる神かみ威い靈れい驗げん日ひをを小こ詔みことまあありりくく  
泰たい官くわんのの紫むら園えん東とう西せいのの旅りよ人にん立た寄よててああるる信しんせせははののいいままゆゆりり  
田た村むら川がは 兼かねもも本もともも亦また大おほ君きみのの國くにををひひげげくく鬼おにののままみみああるる處ところに

十六年十月從四位下征夷大將軍小叙弘仁二年五月大納言右大臣將成  
過去以年五十四 天子旨味園小入唐魏徴比し爪牙の長古墳の山州  
山科の南栗栖の若洞山清水寺の坂上田村堂と稱けあ原旧名高  
座心の座を世ももの故是座明神の宣令ある神威靈驗日を小詔ありく  
泰官の紫園東西の旅人立寄てある信せはのいまゆり

辨はん波は 兼かねもも本もともも亦また大おほ君きみのの國くにををひひげげくく鬼おにののままみみああるる處ところに

ひひははんん道みちととをを換かひひおお中ちゆうよりより若わか上かみとと換かむむひひりりくく 兼かねもも本もともも亦また大おほ君きみのの國くにををひひげげくく鬼おにののままみみああるる處ところに

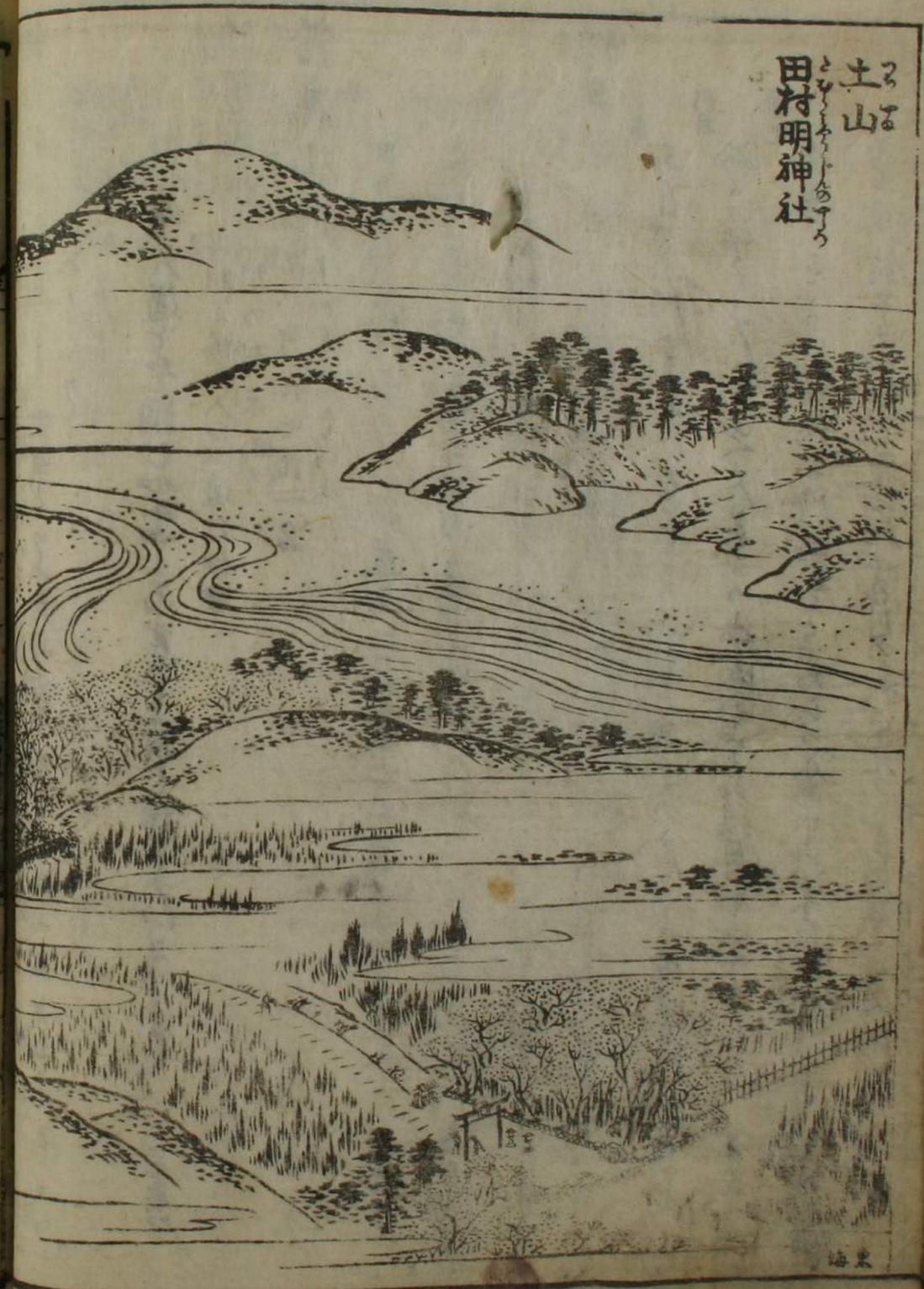
近きん勢せい園えん場ばう 兼かねもも本もともも亦また大おほ君きみのの國くにををひひげげくく鬼おにののままみみああるる處ところに

鈴すず麻ま山さん 兼かねもも本もともも亦また大おほ君きみのの國くにををひひげげくく鬼おにののままみみああるる處ところに

世よももののいいままゆゆりり 兼かねもも本もともも亦また大おほ君きみのの國くにををひひげげくく鬼おにののままみみああるる處ところに

鈴すず麻ま園えん 兼かねもも本もともも亦また大おほ君きみのの國くにををひひげげくく鬼おにののままみみああるる處ところに

今いま宵よのの驛えき海うみ津つ與よととめめららるる本もとのの下した木きににぬぬれれてて假かり座ざ  
のの差さ路ろ館かんををのの嵐あらしににそそののれれ曉あけ月つきのの影かげををととままるる也やととみみええにに



土山  
田村明神社

田村將軍  
鈴原の鬼神  
退治の末  
實記あり  
されども  
久しく世の  
人は膽突  
その事  
これ觀る  
の怖ろ  
なり



觀者の下に  
大なる  
酒  
鬼殺し  
兼吉



鈴鹿神社

勢州鈴鹿郡鈴鹿山あり延喜式神名帳八斤山神社  
坂下駅中の生土神例祭二月八日

鈴鹿川ありさけん八神路山神祭今く出る日この中

祭神三座

中央瀬織津媛命 左右小美吹戸命 瀬羅津媛命  
相殿倭姫命

鈴鹿社

神内外太神宮天神地祇  
八百勢神と祀す

攝社

入山祇命 稲荷  
愛宕

頓宮屋

石橋の右の方

新勅

鈴鹿郡のこの川に於て官ありて藤の青よりみゆる

羅山子神社考云此社の傳記にむ

天智天皇即位と皇弟浄見原親王

小禪とせ給ふ然る小皇子之友軍を假して清見原官に襲ふ小皇子右所に遁

隠す其より伊賀國を越てけしとて小皇子とてあに紫の庵を造り公卿と死あり

皇弟とせ給ふ宿りて小皇子とて見たり君は王位龍顏に於て侍りしに

ひらの病と持たりまはれも君小相假と其相貴とて皇弟とせ給ふ不則寂愛

能く我を先帝の皇弟浄見原親王とて友の乱と避くまはれとて宣へ給

ひらひらと云皇祖 此の川の上の山にありて其の山にありて

此の姓と傳ふて一初給供奉とて治りて鈴鹿川の水漲出く

侍り奉りて後村小鹿一頭本とて首とてかたきとて安くとてつりて

あはれり會鹿河といひ給ふ今の神ありて厥后皇弟是濃國に入り白鳳元年

東國の兵に紀一太友皇子を滅して天位小皇子とてまはれ 天武天皇とて申たり

八十瀬川

一名鈴鹿川海道の左にあり又右に流る

新勅 初初 あり初といくふありぬまはれ河八十瀬とてぬ又月日のに

又月日の日成りてはれ鈴鹿川八十瀬の流を立はりたり

王業 孫とてありてはれ

新勅 あり川氷やせたと成りてん八十瀬の流も行やらぬはれ

八日天晴卯の雨とてふとて立川瀬の流もはれとて初月とて果ふとて

こころの河とて氷とてはれ八十瀬とてはれ波のゆへに

琴之橋

又関縣中にも同名の橋あり

とて山格の古本に丸木橋とてありや琴の若みありてん

又本

佐成



鹿下  
明方  
この戸と  
ありては  
はらへ  
香積山



鹿下  
明方  
この戸と  
ありては  
はらへ  
香積山

澤登山

麻細道の  
大のあた火燈  
戸口八湯桶  
襖漆五神  
又治荷  
旅人や  
時々の  
松名  
シ



坂の下  
驛  
入竹小舟  
大たある  
旅舎あり  
本陣脇  
五老井  
旅の膳  
上原小舟



筆捨山



筆捨山  
拾遺  
所  
筆捨  
拾遺  
圖  
法眼  
之



坂下

冷鹿坂下... 今の高登氏尾別より... 密冊和尚元禄年中の建立なり

岩捨山

瀬川の志あり... 秦帝の姿を... 大黒石... 湯杖嶽...

伊弉

龜山... 自守第の古跡あり... 製より衣討せし道之宿のたぬ親者堂あり

紀り

あそこのいはり遠くを... 宿中民第のお裁にあり

惠植櫻

井口氏の家... 色づきぬあれやどりの園あり

九間山寶藏寺地藏院

真言宗... 本尊地藏尊... 愛深堂 胎藏堂あり

聖武天皇天平十二年... 速小病難... 貴賤... 又之長元年... 夢小冥途





地藏不及招嫖榮  
 欲買相談約束成  
 寐處蒲團繞一牧  
 來時太嚴已三更  
 羅縠寶帶數千蟲  
 雲雨巫山二百情  
 昨夜幻妻今晚現  
 明珠飛出額如蠶  
 胴脈

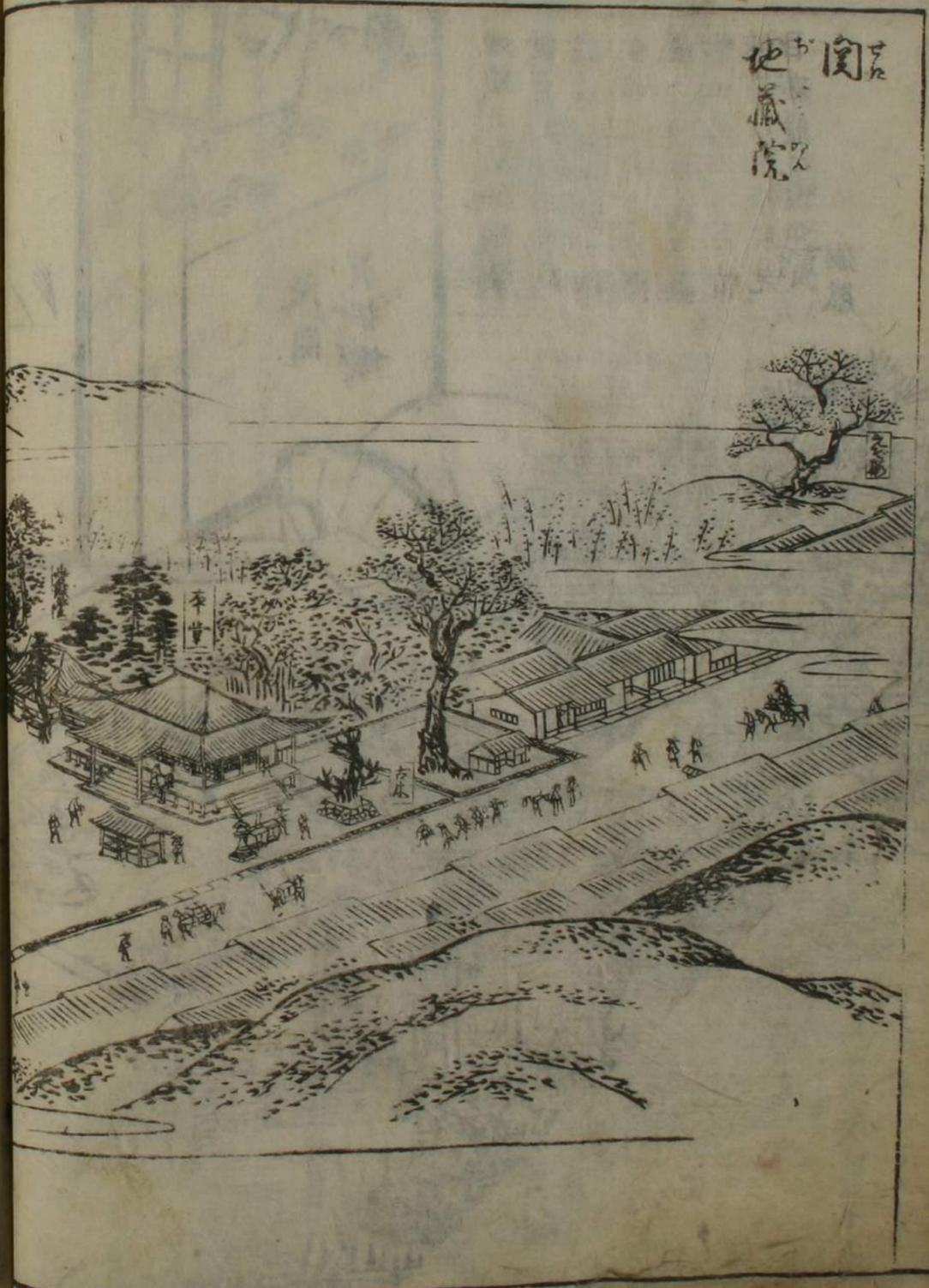
泊  
 閑  
 買  
 招  
 嫖

月  
 漢  
 寫

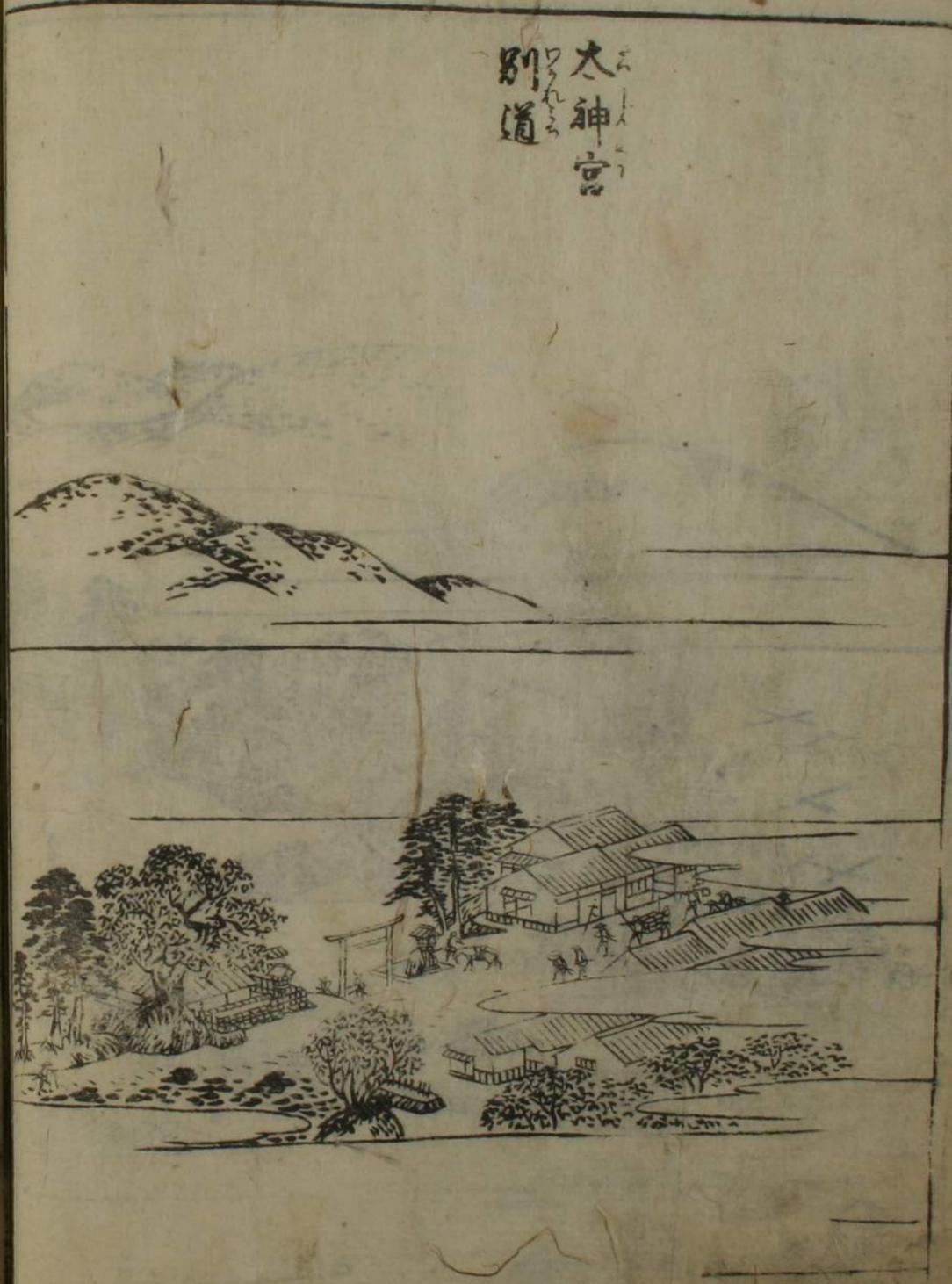




右  
圖  
地  
藏  
院



大神宮  
別道



秦宮道

出羽森

古馬登

布氣神社

龜山

森下

庄野

白鳥塚

秦宮道 山田外宮を十四里を歩き神燈籠石より直道へ東海邊なり  
 出羽森 出羽森古森のくはむに大岡寺繩の十八所あり右に黒山とて  
 古馬登 出羽の南にあり村の名とて天照太神五十鈴川の上へ遷居の村あり  
 布氣神社 聖尼村小の延喜式内今皇宮大神宮と総に例来六月廿一日  
 龜山 庄野をぐる里龜山平中十七所外左の方には城あり  
 森下 慶長の辰岡平下野守とて人居城せり  
 庄野 今ハ石川彦左成あり  
 白鳥塚 今ハ石川彦左成あり  
 庄野 石末師を七七所は馬の名おは儀入の想設を愛とありより此町許森の  
 植聖村といふ所あり名馬生味の所といひ此の長者野宮  
 の親者の示現より門に馬矢傳く右大將頼朝の採けり其後  
 佐々木高綱小幡宇治の先陣あり  
 白鳥塚 庄野の十町許東鏡麻郡の内宮村あり是則日本武尊の  
 陵のち拾八間東西八拾五間南面今ふけり日本紀より能登野の  
 又ふけり神の方に高式大東西六間半申式尺許に石を築きむれ  
 白鳥塚の側へ又奉祀家とてあり又奉祀家とてあり其の側へ  
 白鳥塚の側へ又奉祀家とてあり又奉祀家とてあり其の側へ

諸上人ホテ... 今多ク... 日本建尊自阿豆麻幸行而到能煩野之時思國以

日本建尊自阿豆麻幸行而到能煩野之時思國以  
歌曰夜麻登波久示能麻本呂波多多那豆久阿哀  
加岐夜麻基母禮流夜麻登志宇流波斯又歌曰  
伊能知能麻多祁牟比登波多多美許母弊具理能  
夜麻能久麻加志賀波表宇受尔佐勢曾能古此  
歌者思國也又歌曰波斯祁夜斯和岐弊能迦多  
由久毛章多知久母此者斤歌也此時御病甚急  
尔御歌曰表登賣能登許能辨尔和賀淤岐斯都流  
岐能多知曾能多知波夜歌竟而即崩尔貢上驛  
使於是坐倭后等及御子等諸下到而作御陵即匍  
匍迴其地之那豆岐州而哭云云

夫日本武尊... 景行天皇の皇子... 小碓命と申以乃名倭男具那命... 此尊者女の姿小身と称ひ其家に入... 者瓜平げやふ是より倭建命と称ト... 神凱陣の道より中嶋ありて終小は終獲所... 天皇小哭しやひ群臣小命トてき... 倭國小死リ群臣其棺を閉た... 大和の琴彈原小陵と傳る白鳥更... 陵と云く時の人け三陵と稱く... 高富山瑠璃光院石薬師寺 石薬師歌のあり  
本尊石佛薬師如来 長七尺八寸... 當寺尊像へ金輪涼より出現の靈石也 聖武帝の所宇神龜年中紙の

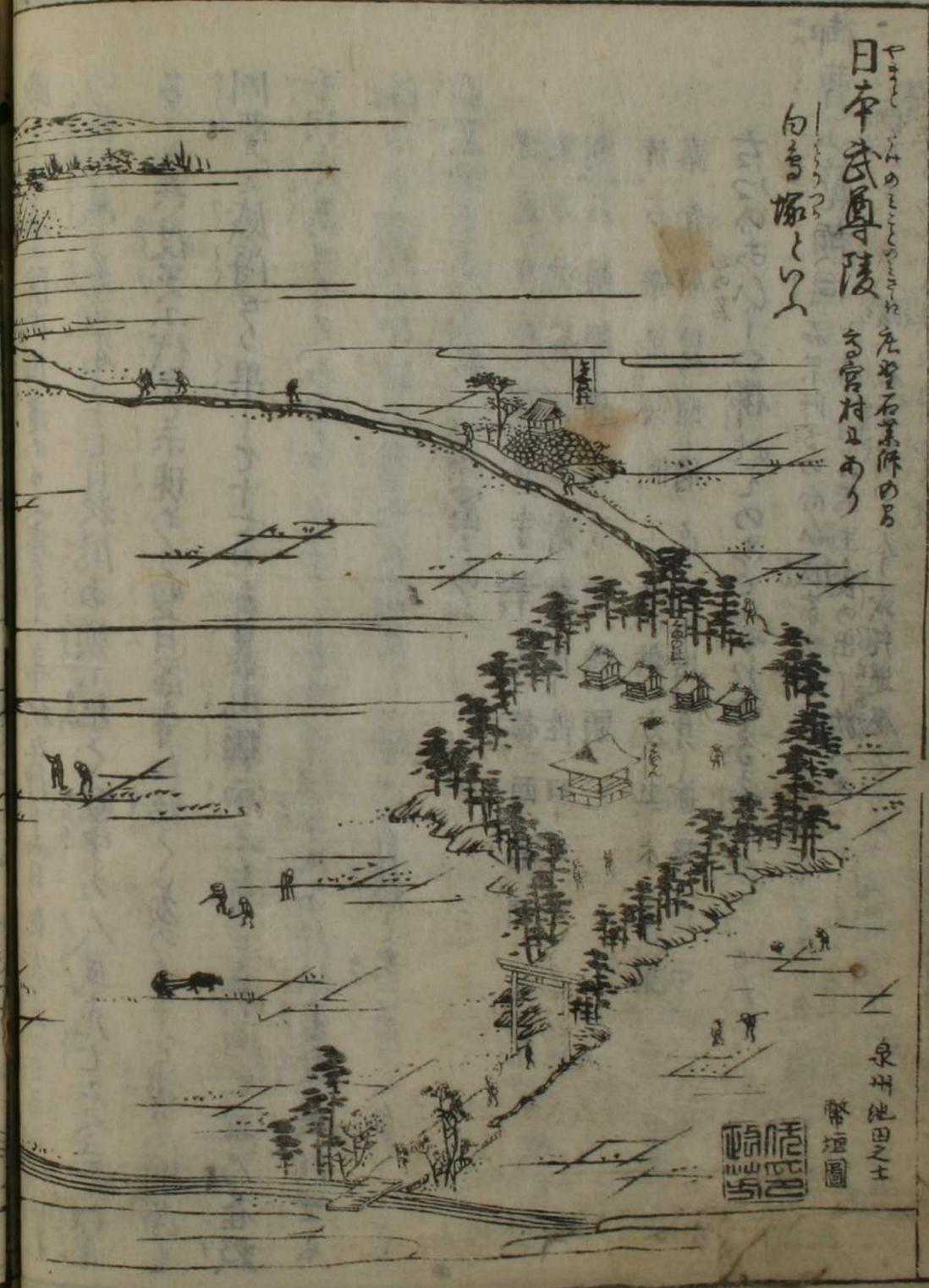
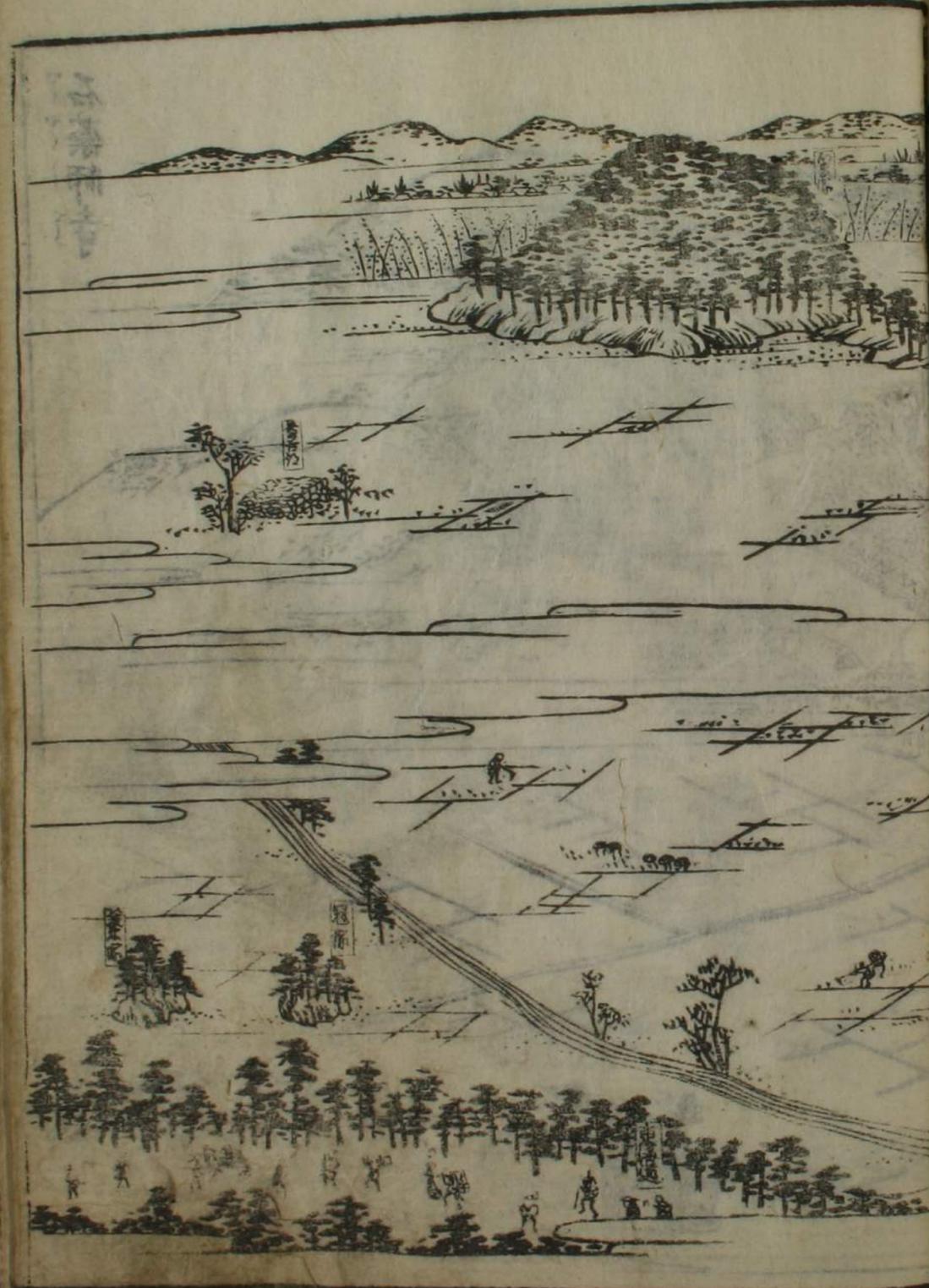
泰澄は所を通りゆくも、其光輝々たるを所とてお申人に泰然と樹林  
の中より異香薫と十二神將のつきたはひ一箇の赤石を捧ぐ、泰澄  
感悟し、ひ末世の衆生利益の爲正しく、醫王尊の示現とて速く一字を  
割く、靈石を安んず其後弘法大師泰澄の蹟と追ひ靈石をり、以て醫王  
の尊勝を彫刻し、桐好満く、又も同眼供者ある其より、靈應日々新あり  
く遠近の致禮猶麻のゆへ、由 嵯峨帝の敷聞に達、持舎僧房宮建  
わりく寺を瓜割り、中古泰永兵乱の以、蒲冠者範頼、上洛の時まに  
治し丹誠を凝し、武運を禱し、携りひ、鞭を倒み、く地ふり、今ふ  
枝系榮り、道く、大兵の兵變に罹り、佛閣一時の燬とある、幸ふ本尊の  
災と免、燼中み恙なく、何しく、其の住職圓賢法平、智徳の沙門  
あり、ある時、中示現あり、秘法を教へ、精進と加持し、世上、病難を  
とく、ひ、殊に、乳汁をた、婦人、出、手、洗、ぬ、ぬ、法、平、復、賞、く、教、の、ゆ、く、世、弘、心  
あり、瓜割りの八割、米と、り、一、柳、直、盛、度、あ、園、神、戸、居、城、の、時、後、々、の、あ、特、と

感、ド、本、堂、院、内、再、建、の、る、又、寶、永、六、年、秋、九、月、十、四、日、夜、あ、園、四、日、布、淡、田、村  
の、長、何、某、が、夏、み、あ、る、十、七、日、夜、風、雨、頻、ふ、起、り、馭、中、の、人、民、死、亡、と、云、ふ、と、村、崔  
多く、其、夜、災、不、代、り、と、示、現、あり、翌、日、あ、寺、に、往、り、災、の、ゆ、を、治、す、小、別、あ、り  
同、夢、と、感、得、せ、り、果、し、七、十、七、日、夜、暴、風、驟、雨、志、た、り、其、時、竹、林、乃、崔、殺  
千、羽、先、着、せ、り、人、み、か、あ、く、と、く、追、悼、の、作、爲、あ、り、は、盡、應、其、以、世、に  
流、布、を、る、新、之、け、騷、の、舊、号、瓜、高、富、と、い、ひ、と、自、然、と、盡、尊、瓜、賞、と、く  
石、茶、師、と、い、ひ、山、野、瓜、高、富、と、い、ひ

總、過、庄、野、郵、有、寺、聳、高、樓、西、福、門、前、景  
東、方、世、界、秋、百、病、無、自、性、四、大、一、浮、漚  
刻、石、藥、師、佛、此、言、須、點、頭  
拜、石、藥、師、其、制、工、應、供、方、土、本、當、東  
露、會、虛、碧、瑠、璃、色、間、出、身、途、鑿、鏗、中、十  
右、心、の、あ、ひ、く、柳、花、の、ま、と、ふ、や、た、か、み、の、殺、つ、り、れ、と  
御、曹、子、範、頼、祠、石、茶、師、の、向、ひ、坂、の、表、に、た、た、り、土、人、三、む、り、範、頼、の、數  
と、倒、れ、さ、う、の、後、ふ、枝、葉、榮、り、今、義、經、通、風、と、い、ひ、瓜、田、島、の、中、に、わ、り、範、頼、の、數  
と、倒、れ、さ、う、の、後、ふ、枝、葉、榮、り、今、義、經、通、風、と、い、ひ、瓜、田、島、の、中、に、わ、り、範、頼、の、數

釋元政

淨慈和尚



日本武尊陵  
石室石床の石  
宮村あり

白鳥塚あり

泉州池田之土



石薬師寺



石薬師

四月廿七廿八里武拾七町山縣市中七町計  
東の立場に瀧原と云ふ地名あり

推武考祠

長保村あり石薬師縣中より左の方へ入る年許を里計  
神田本武尊子推武考王あり

赤人古蹟

石薬師縣の赤小谷村右の方十三町許ふとを村と云ふあり  
赤人の棲所と云ふ古蹟一里の山の上に東面南向許あり

固分寺跡

石薬師の東に曲郡固分寺村あり今津土宗とあり常慶山と号に  
昔元明帝若老年中に宮中より一州一守の古蹟

杖衝坂

杖衝坂あり右の方の山の上に血塚と云ふあり詳あり  
杖衝坂あり右の方の山の上に血塚と云ふあり詳あり杖衝坂

自當藝野

自當藝野上差少幸行固甚疲衝御杖稍歩故  
其地謂杖衝坂也

歩ゆり

歩ゆり杖つと坂は馬の歩  
杖つと坂は馬の歩杖つと坂は馬の歩杖つと坂は馬の歩

采女村

杖つと坂の東にあり傳云日本武尊神代の時三重の郡  
杖つと坂の東にあり傳云日本武尊神代の時三重の郡杖つと坂

追分泰官道

追分泰官道あり山田と云ふあり  
追分泰官道あり山田と云ふあり追分泰官道

日永村

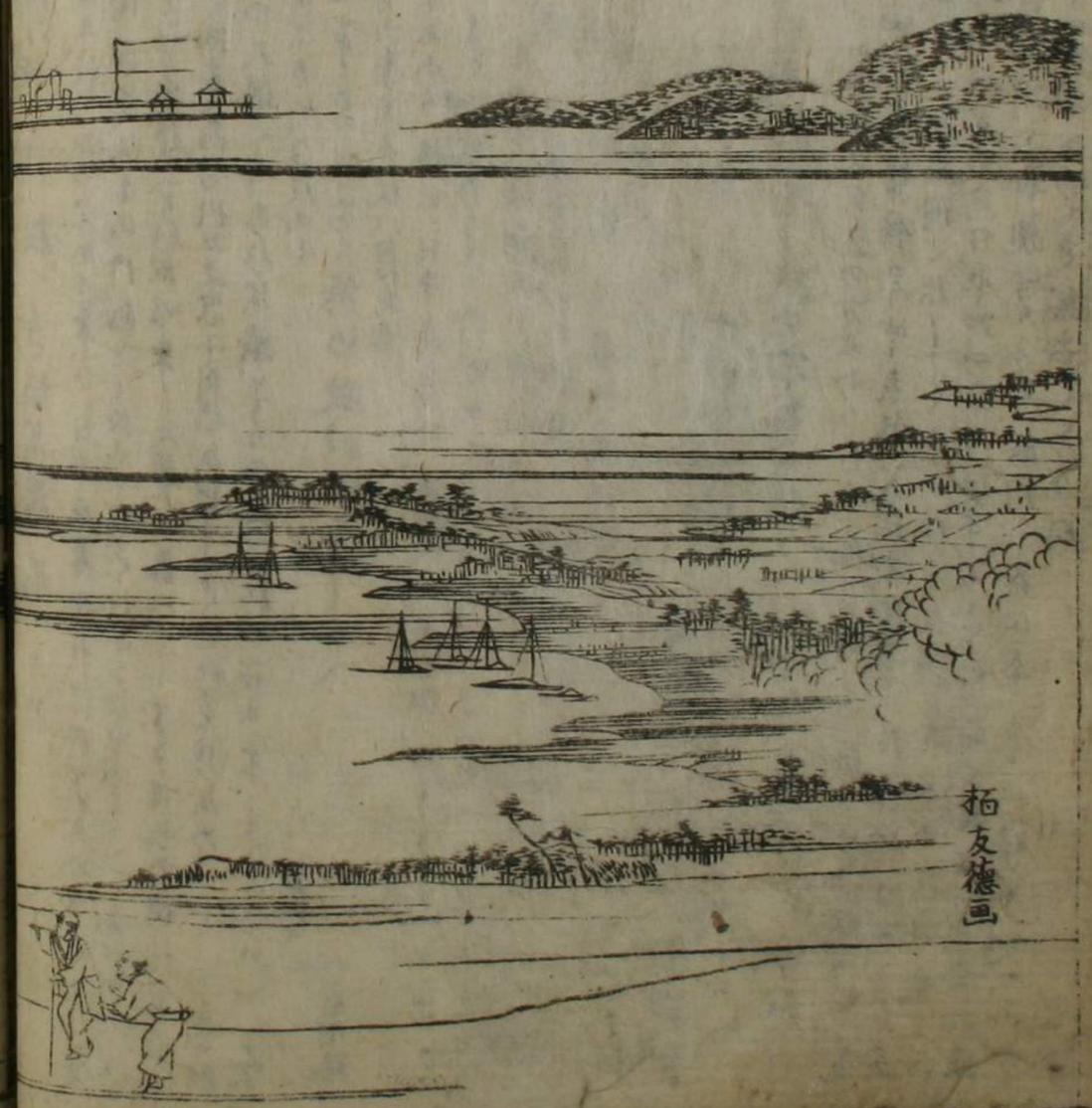
日永村あり津土宗の寺あり  
日永村あり津土宗の寺あり日永村

安國寺舊趾

安國寺舊趾あり日永と四日市の間にあり  
安國寺舊趾あり日永と四日市の間にあり安國寺舊趾

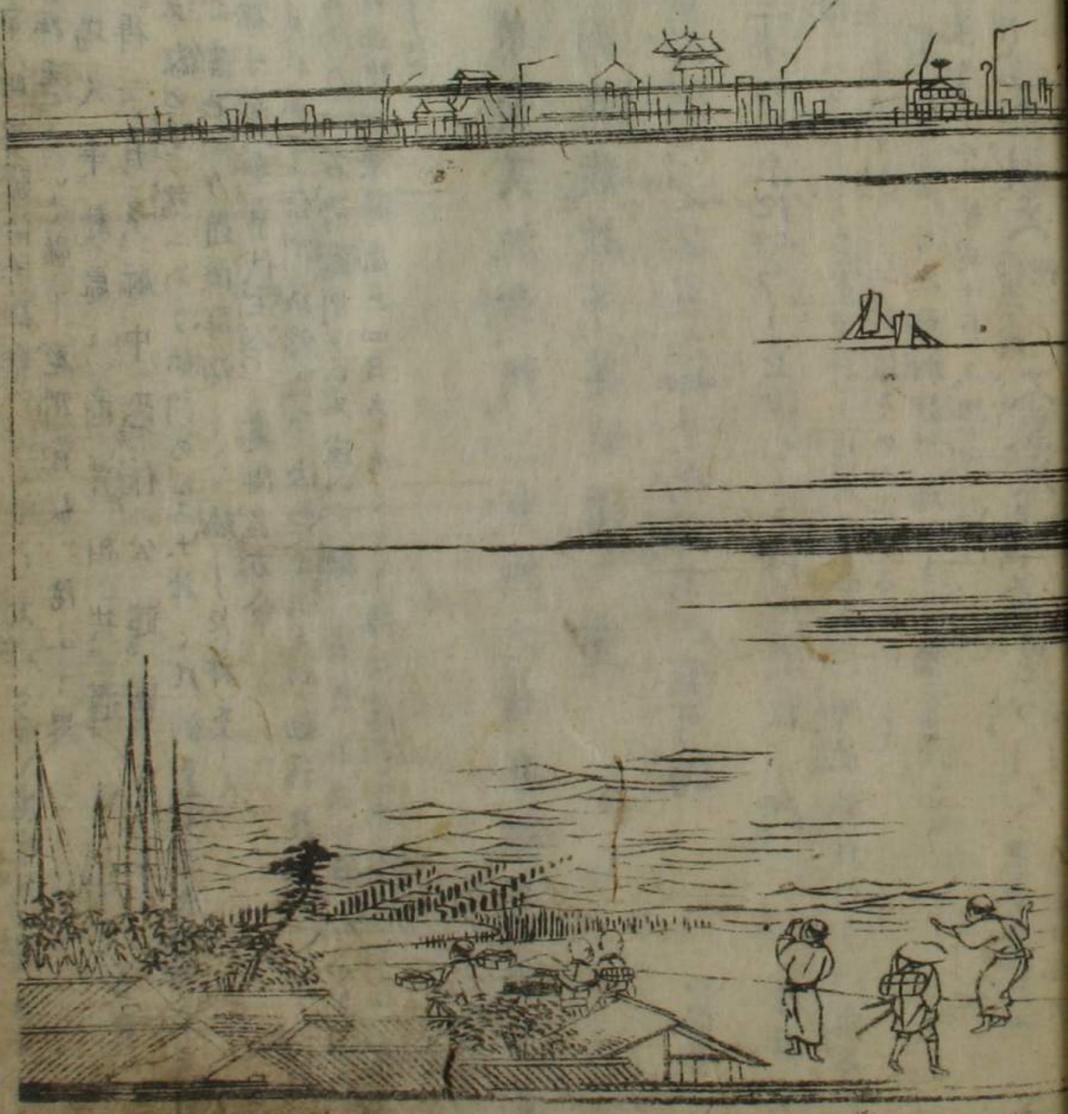
安國寺舊趾あり日永と四日市の間にあり  
安國寺舊趾あり日永と四日市の間にあり安國寺舊趾

勢州四日名  
那古浦  
蜃樓



拓友徳画

蜃樓  
陽光  
粟飯  
たのしく  
夢



四日市

地名之里八町海陸都會の地なり... 四日市場人争赴處... 交易添得一日多一厨中恐作公超... 春育

系神二座

建仁年中信州河内郡上土佐社がまに勸修寺

三重川

三重郡の山中七里許流る四日市あり... 海に注ぐは橋上より那古

古事記

日本武尊自其地幸到三重村之時亦詔云吾足如

三重勾而甚疲故号其地謂三重

吾疊三重乃河原之磯裏尔如是鴨跡鳴河蝦可物

夫本

亦名之三重の河原にひくまゆりて復板川

東眞山建福寺

四日市小の禪宗曹洞宗總持寺の輪廻所あり... 本尊釋迦佛 佛知在財天 行交師 大黒天 毘沙門天

鎮守

白山 辰申

當山會式

伊保會 四月 人延修 七月

十六羅漢

涅槃像 佛兆殿子牙

出山釋迦 牧彦子

拈華釈迦 額輝子

那古海屋樓

那古浦の海に古浦あり... 今に堂あり... 今に堂あり... 今に堂あり...

那古

靜者天地之質也動者天地之氣也... 論夫一氣之運動轉旋也... 仙人有靈禽獸鱗蟲有道通者有苦勞者有顯見者有隱匿者彼此萬態皆一氣哉吾神四日市中

面十大海門矣是海門也南界勢之熊岳北  
則尾州如海嶠也其間亦數十里所有之  
數處點已春之夏之交數月一鄉所望不  
其微風收將雨之前自熊岳至尾之日晴  
靜變或海門所在而地如連雲上忽爾  
烟排列森或臺閣或門關前有干葉後有  
山北海象不違平常其顯見也發南而  
失北古今不違歲率五七圓若久吾三  
焉不週吾鄉數千步蓋所以為吾三  
士人傳道二鄉所皇太神廟遊幸于尾  
廟也博物者云勢灣之神北遊幸于尾  
為其所吐也嗚呼神靈之測若非夫天地  
天理不可窮神慮不可測若非夫天地  
運動轉旋為奇觀為勝者非夫天地  
東海道中名所圖會求貞所記一圖氣  
題實以贈亦貞之拙筆端之氣哉  
覽政七年四月乙卯夏五月曹西村  
勢州四日市驛馬曹西村

聖汲觀名

四日市乾里軒聖汲山あり天台宗本尊なり  
他又兼師堂あり真院あり慈覺大師像あり  
諸堂巍々あり之正

志茂神社

朝明郡羽津村あり延喜式内  
系神天照太神荒靈記内

西乃菴蹟

船形川の上二里許福の山に禁ことり  
今同跡あり

名物燭輪

遠田の燭輪の茶店に火鉢と燭輪あり  
旅客の譽れあり

町屋川

尾州小牧合和殿の境内に信雄口と豊臣秀吉とあり

茶名

宮守七里に海州尾州の國津佐屋あり  
宮守七里茶名あり

名産白魚

尾州赤須江あり  
尾州赤須江あり

時雨拾

尾州赤須江あり  
尾州赤須江あり

名産白魚

尾州赤須江あり  
尾州赤須江あり



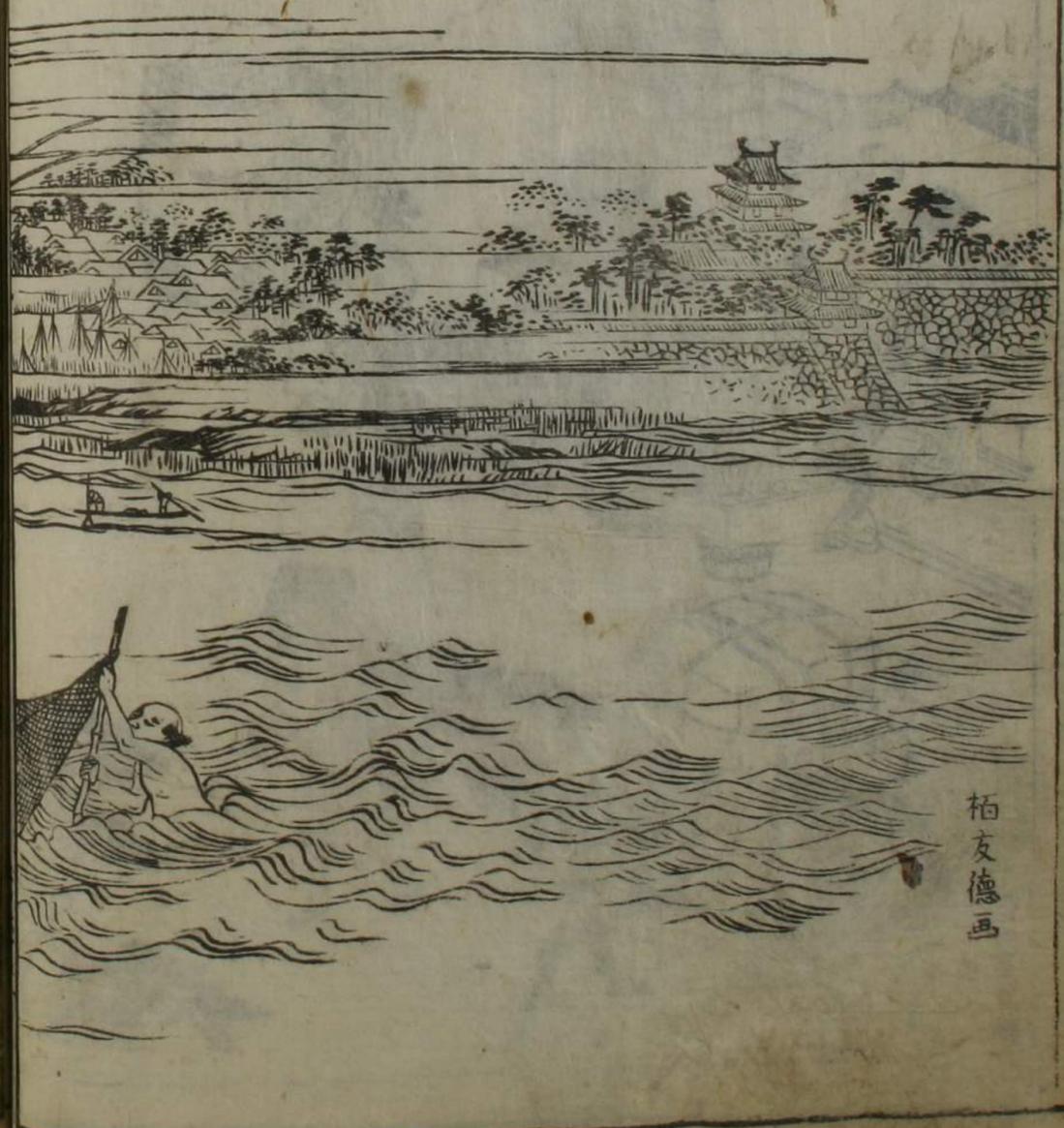
四日市みゆき  
 せふといふ名の  
 燈塔ありらう  
 を優りて  
 糸の若妙手  
 初めな海に  
 寄華衣  
 衣の若  
 ひくも  
 糸の若  
 糸の若

春良画



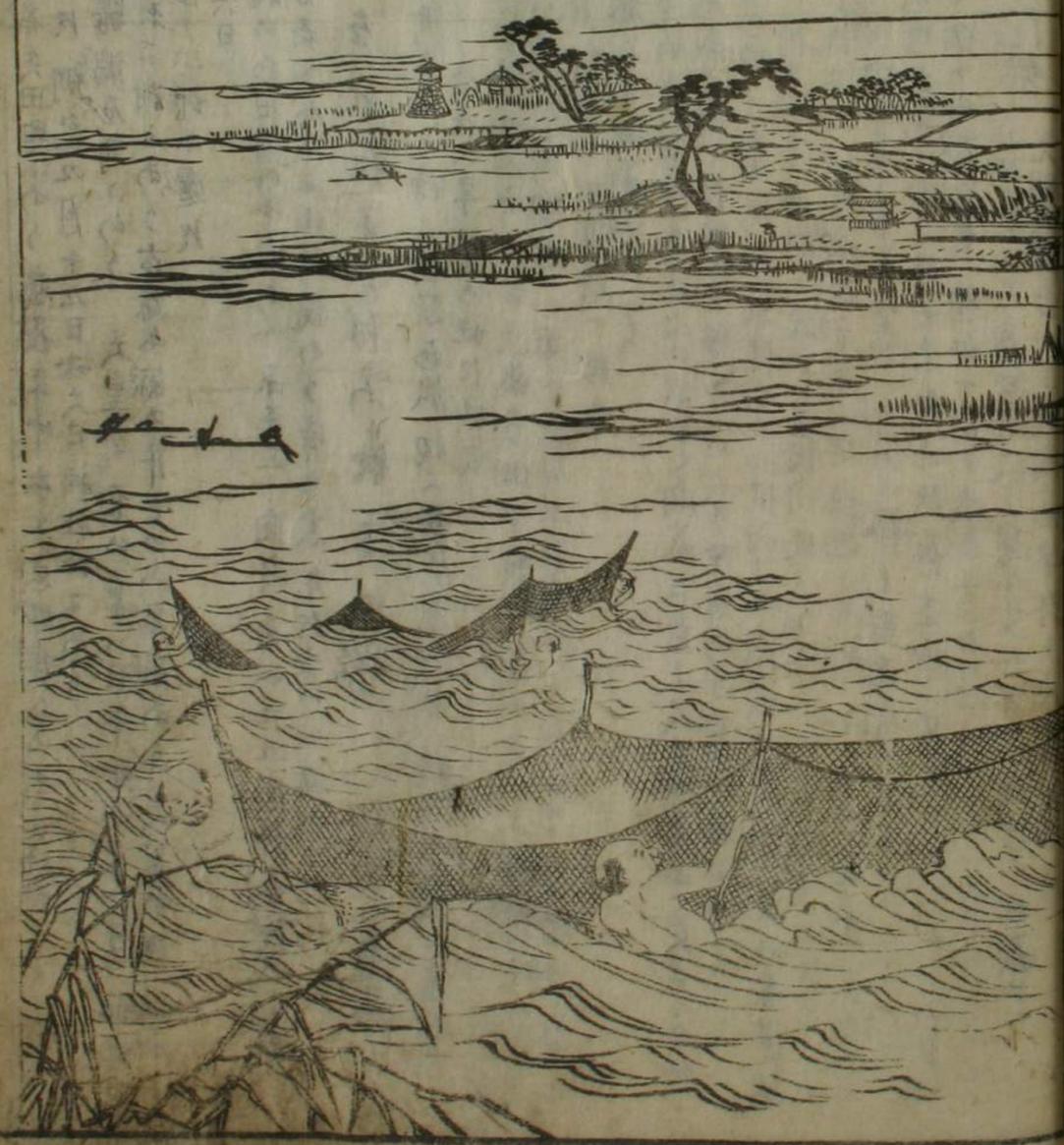
四日市米名の  
 富田の  
 の焼拾の  
 してゆきの  
 あふ酒と  
 勤め  
 賞  
 不ゆ  
 喜  
 班作

瀬名の海を  
 冬より夏に至る  
 まで白魚の候と  
 申すなり又船は  
 秋八月の初より  
 知る所をるれと  
 美味しきしぐれ  
 船の名をいり  
 出たり



栢友徳画

白魚の  
 鮮い  
 魚の  
 池  
 各  
 貞隆



夫田八幡宮

東名夫田町あり慶長年中本多忠勝侯のよむ此村よりあり

天武天皇社

同驛鴻原町あり天皇御幸の事八日奉祀あり

一本松

本松村の西田圃の中あり東名三十間許あり

一本比ねりおん入るるの曙

長圓寺

日驛日所あり津古真宗色伽初の真言宗旧地

本尊阿弥陀佛

他不詳中右住職貫通本願寺蓮上人

嘉量寺

日驛日所あり日蓮宗身延山の末

願護寺

日驛日所あり日蓮宗身延山の末

本尊阿弥陀佛

安の孫永祿元龜の長

十念寺

日驛日所あり津古真宗色伽初

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

法然上人鏡神影

正法日所あり良忠上人傳法之印

良忠上人三重郡

四足八身村觀表寺

弥陀伴ひ

念伴六万遍

約一里

毎日寅の別に東方

林名

九品院と

光徳寺

同驛日所あり津古真宗色伽初

本尊阿弥陀佛

真心傍那他

念伴

念伴二年

泡洲崎八幡宮

先徳寺内あり

衆名神社

日驛官通の

祭神

春日明神

攝社

本山祇神

母山祠

祭神

末社 神明 慈聖 若宮八幡 多度 酒解神 神宮寺 併眼院と号次

あ社ハ彼母山地主神と日名山王又宮神社と延喜式内東名神社と云ふ事ありんを又三崎明神といふ事其後伏見院御宇正應三年南都より

本統寺 東名寺岡ふあり系解東平預寺楊婆所東名寺坊と林次初

輪崇寺 圓林房親聖人と稱とくく唯伴房と改む

本尊阿弥陀佛 親聖人影 光明本 真聖人の

文殊像 遊命終を最弟の所夫田の系の西あり

神寶山法皇院大福田寺 東名城下十町許ありく東方村小く

正觀者 右脇櫃不安長八尺寸五分後文會修善勲の両代編記云

寛平法皇宸影 左脇櫃不安長其外

聖天堂 本堂の南あり醍醐三宮院官報恩院法持念のき係と靈驗新に

十一面觀者 鎮守 門前の山腹に鎮坐

八相成道画圖 聖德太子御尊さす一の什室に妙相解ありく海内の表寶と云

十六善神繪 聖武帝御寄附皇太神官法棟殿若會奉さあり

如意刺髮曼荼羅 厚和帝御寄附 八佛曼陀羅 同帝御寄附

金剛界六日像 厚和帝御寄附 文殊菩薩繪 村上帝御寄附

金剛子念珠 寛平法皇御所持 寺領繪旨 後宇多帝より給人

不初尊 弘法大師代 同尊 智證大師代 不初尊繪 眞教大師代

緋紙金泥龍施女絶 光明皇后御尊 存財文 弘法大師代

二菩薩法号 法陽成院宸尊 尚寺縁記 西三条内大臣實清の尊

其外教品畧之

聖德太子御尊 聖德王の系創之其後文武帝 持統帝等

り存ありく般若會仁王會あり 聖武帝の皇右神宮奉幣の時當ふに

奉ありく千僧法集會成概りし中弘法大師ハ一夏安居しく二密の法成

修し眞言の道場と云ふ 厚和帝の時時少の勅願眞言の梵利也

實平法皇 宇多 皇太神宮 法樂と成んて當寺小幸の川に皇太神宮の

教向公作侍の八月と累の日伏候と云に遊觀し人因茲方丈の宮に

法皇院と稱し 後冷泉帝も永承七年正月幸有て一僧公敷て初會の

續經あり其後弘安元年大興小罹く伽藍灰燼とあり中興伊智長官額田部

之和實澄神託公崇り忍性上人 興正菩薩の上足たり 心と合せ再建不及ひ

福田寺と稱し 忍性と中興とに神託の靈應顯聞小達し 後宇多帝の

初願寺勢の詔公賜し足利將軍尊氏當り公尊信しと人の字とくく

大福田寺と稱し世人の只大寺と稱し厥后明應より大正に至るに於て兵變に

罹りぬ往古に南伊智山田の川に神宮寺たり唯一ありし時奈名郡に移り

近世万治三年まで安永村江場村の間にあり今東海道大福村の間にあり是當寺

の門ありし所の故に大福村といふに北伊智に於て初願の靈場真言の古刹に

於て之を双びかきしり塔頭寺七院末寺四百四十餘ありしを定へし

御寶殿 宣旨所ありしり、持統天皇の御時之に神託の神寶ありしり、所て

佐乃富神社 所宝殿社地あり 延喜式内

中臣神社 延喜式内 日新あり

佛眼院 原名興通あり天台宗東嶽山に属し山号寶興山 額録書あり寶興山と書け云龍の寺

本尊文殊菩薩 嵩山二十世快尊法下の他靈伴阿弥陀安ら休の他 又十二面觀者 三空荒神共に快尊の他

什寶 緋紙銀泥華嚴經行願品 惠果阿闍梨著 延喜寺統記 尊本親王著 唐書 羅名肉色彩衣公經を比較の妙画

已上 卷七の向基の修教大師の跡海院と号し旧地今の東方村の西南あり

延喜帝の御時より三條の神宮寺と稱し依之今の地に移り當り二十世

快尊法下の長考より七十茶の跡に保ちて登天とあり寛永年中

の住職の文尊法下の勅定城天海和尚の門子 兼名入江冊あり津上宗西山派ひり比叡ありて天台宗之

仁明帝御宇呂運和尚南基其後智州明那馬場に移り

本尊阿弥陀佛 惠心傍那他隔檀阿弥陀基日他茶師伴定朝他長武又九村 立像初天台宗の本尊之馬場村に移りふりり

什寶 十五画像 親輝等丹青妙畫之。大黒天 修教大師他投頭中と著け異相之 地蔵等 唐書古画。不初等 十六善神 俱不唐書古画 已上 當寺の慶長年中兼名是所あり今一五町と云く、武士屋敷と云ふ 長治二の八入江所に移り

柳堂法盛寺

桑名藩所小あり津土真宗西風寺中ユケ寺  
末寺六十餘箇寺北伊勢小あり

本尊阿弥陀佛

法慶化長三人銘清齒と具延  
開基の安延仰うて奥州秀衡の持尊

經藏

通平寛政二年造立額般若山  
東福寺の巻を草紙とす柳東福寺八向山聖一團所より大瓶の隠ふし

金鼓堂

堂あり小書院  
室領寺官理秀尼公等

書院

室領寺官理秀尼公等  
嘉禎元年の杖親聖人

最勝寺

日所小あり右同宗西風尚も原真言宗  
本願寺と云世覺如上人小序して今宗とあり

本尊阿弥陀佛

春日の地初八同國  
末寺百八十餘あり長崎一亂の時尾州

不動院

日所小あり真言修驗道醍醐三空院小属  
元和中城主松平源州彦清所造なり

本尊不動尊

真心の化  
金剛界大日尊 三國傳本

鎮守天満宮

不動院境内小あり多居額天満天神  
佐々木忠作は神像の長

楊柳寺

日所小あり曹洞宗旧地  
城西郷所と云之は所 持統天皇降臨の

本尊釋迦

坐像 正觀者  
金剛坐像天竺像也

赤須賀地蔵尊

赤須賀東渡の上あり石像三尺五寸  
海をより出現真言修驗道寺

常燈明

夜走波海廻船の燈  
徳海軍神

伊勢海

東名より西風の陰海  
白魚像 芭蕉翁句碑

伊勢海

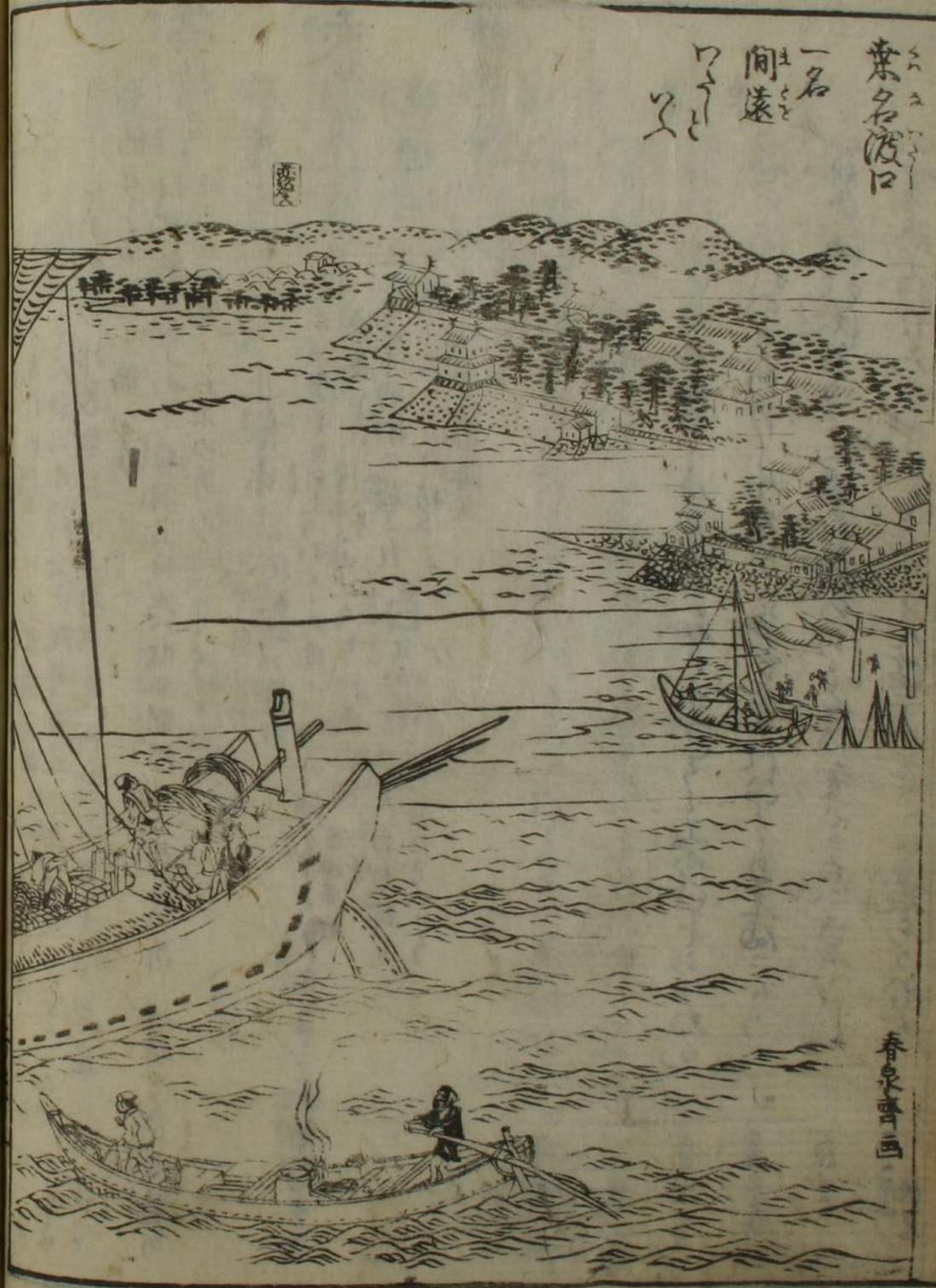
いせの海小釣るとまよふらむれやを  
いせの海に燈をくまよの夜あるとまよれ  
いせの海はあかりのりかたをくまよれ  
いせの海はあかりのりかたをくまよれ  
いせの海はあかりのりかたをくまよれ

伊勢海

いせの海はあかりのりかたをくまよれ  
いせの海はあかりのりかたをくまよれ  
いせの海はあかりのりかたをくまよれ



帆  
 真帆  
 帆の胡蝶か  
 帆



葉名波口  
 一名  
 同遠  
 又

春泉亭  
 四

間遠

間遠 七里の磯口... 延喜式云々

わそのひのあつふいゆ... 伊勢守

曙元

奈久小着ぬ城のわ... 月もまろく入方をく

拾人ものそれ初くまり

拾人ものそれ初くまり

樽柏子

多度神社

北伊勢奈久郡多度小町

祭神天津彦根命

相殿 左面足尊 右面根命

日本紀曰素盞鳴尊御子天津彦根命此... 續日本紀云延暦元年十月朔叙多度神從五位下

攝社一目連祠

多度神社遺使奉幣... 多度神社と伊勢守



多度山



朝拜岩  
七ヶ園  
眼下  
遮る



山  
下  
河  
川



夕立  
塵  
流  
神  
乙由



津  
牛頭  
大王





津島牛頭天王

例祭六月二十二日

祭神素盞鳴尊 本社小倉内南向神本祭供殿廻廊并殿勅使殿中

一王子祠 本社の左小倉内素盞鳴尊 八王子祠 本社の右小倉内素盞鳴尊

柏宮 透塙方あり 居森祠 土人疹宮と云む 彌五郎屋 地注計に社説云

他毒神祠 尊神の荒魂を奉り 獲氏將末祠 尊神の御魂を奉り 十二末社 天王古齋社

熱田神 登神 尊神の御魂を奉り

ま出社の神傳と鑑小仕地の舊名は藤波里と云ふ皇七代 孝靈天皇

四十五年牛頭天皇の和魂太神韓土より版朝ありと云川西州對馬に

互く兼と果の廢后 欽明天皇元年神勅有る尾張國海部郡の二郡あり

門真在は神傳小神をいへば按對馬州小津兼之と鎮座ありと云

う川之遷すの後と云字に改く津傳天王と稱せり又地名藤波と

廢く津島はと海と後世永祿天正の辰贈正二位右大臣藤田上総女平

信長公を過りて後向く畿内及び東海東山兩道の間小倉にあり

逆多の討く威と四海小輝を奉信祖の歩らゆり當社天王の神威は

尊信一治平安民の擁護は協つ社願は經營一系式は教奉り

やふあれと傳書ありと云遠近の壯觀とありみか足四海の浪標と

しく平天下の瑞あり

傳書系記

花洛 兩田子葛蹟迹

第一寛政の御記ののみか月尾張の國鳴海の里下村氏のまゝと云ふりて

津島の中へ見ふありやた地田氏とありと考對小下村氏の神人眞智時嗣

が著せる系記 正徳三年の こと示されけ記は本由藤論と云ふりて行伝且

おたてりうりて久あわれ今も傳うりて見多所と奉りてまのゆかりあり

かの祀ふりて要と傳を考に押し奉りての御神人氏のを徳みふりて

傳と納涼とありて基ありて十日の宵祭とありてひひの夜 追分御祭 故

試樂とありて信樂と唱へりて神宣祀ありてかの祀ふり 六月二十

より八日小建の毎所の車登りて潮樂十二日小至く江口に於て馬の試樂 六月二十

と云津島は法と十日日十五日共小安全の御とありては里俗ありと云ふ





蓋茶の  
 日本小倉  
 あつそし  
 穀の中あ  
 孝川の  
 物



香泉

谷の神  
 社の神  
 穀の神  
 調進に  
 あれだ  
 中の香  
 り



其の地

壹津の東宿のまんとをれをそと産の人ありきりくちともや  
はくふのてあるあり今日に市に日ふあんとありてそのいふを  
性還のあふひよふむかひやぬ家はさもくのえんくれみや  
人ふかきんともある花のあふんはやうりてたれは  
花あふぬ色香もあふぬ市人のいふてあてせむの魚つ

阿波の浦

壹津のやういひうへ海をこえんてり  
金子  
古語多し

多ふたるあをそれ浦の海士たもみらうくあをそとす

保雅光

汐る社ひまふあふやあそその浦に海士とそりや

保雅賢

つら哀あつその浦に川せ貝むかひくのもぬむ社

保雅賢

よくふのふくはもろ一名やそるあつその浦にあゆのりか火

後寺昭院

洗はあつその浦ふよりあつその浦にあゆのりか火

乃社

徒はあつその浦ふよりあつその浦にあゆのりか火

保雅法師

阿波の社

阿波の神祠の神籙と

保雅法師

つら哀あつその浦に川せ貝むかひくのもぬむ社

乃社

阿波の神祠

阿波の杜のあり又粟殿社と書次守傍正法禪とてり

乃社

社傍説ふ三糸神伊弉諾伊弉册の二尊とてり土人云むりより産子の入る

粟殿と称し五穀及び瓜菰子根の類初生は神祠の側み菰菰のりあふ

より其初生とて瓜菰の類初生は神祠の側み菰菰のりあふ

國中の人の中膾炙するといふ事あり

反魂家 阿波のの來ふあり藤といふ女あり其妻奥羽の方へ遠征す

豊秀吉公出陣古蹟

尾州海東郷上中村あり佐屋とてり岩原より廿町計

八月十八日豊大岡薨御の日に法遊ありて群衆をよみ又加藤虎之助

出陣の諸侯いかりふ古蹟多しとて

異編日本傳曰

萬曆十九年十月九年天正率兵超入大明之時秀  
吉答書曰朝鮮國王閣下雁書薰讀卷舒再  
抑本朝雖爲六十餘州比年諸國分離國綱

東海通名初圖會卷之二

如修許憂年吾不己朝政攻依壯母予間廢  
 日隣容者者朝脣雖廷氏則有年夢事伐世  
 錄盟也乎在風國歷盛富無此必日蹟報禮  
 領也予遠方俗家長事財不奇八輪鄙臣而  
 納予入邦寸於之生洛足取異表入陋討不  
 珍無大小中四隔古陽土既作聞懷小賊聽  
 重它明島貴百山來壯貢大敵八中臣徒朝  
 保只之在國餘海不麗萬下心風相也及政  
 畚頭日海先州之滿莫倍大者四土雖異故  
 不佳將中馳施遠百如十治自海日然域予  
 宜名士者而帝一年今古撫然蒙日子遠不  
 於率後入都超焉日矣育摧威光當嶋勝  
 三臨進朝政直鬱也本百滅名所于悉威  
 國軍筆有化入夕夫朝姓戰者及陀歸激  
 而營者遠于大久人開備則其無胎掌  
 已則不慮億明居生關際無何不之握四  
 方祇可無萬國此十已孤不疑照時龜中  
 物可作迎斯易乎世來獨勝才蓋悉按之

